萩尾望都
Hagio, moto
5月12日、福岡県大牟田市に生まれる。
別冊少女コミック連載の
「ポーの一族」シリーズで
爆発的人気を得て今日に至る。
1976年小学館漫画賞受賞。
名作「11人いる!」「トーマの心臓」のほか、
最新作に「残酷な神が支配する」などがある。
カバー・イラスト……………萩尾望都
カバー・デザイン……………鈴木成一デザイン室
萩尾望都
Hagio, moto
ポーの一族
2
sb
小学館文庫
ポーの一族
2
萩尾望都
小学館文庫
はA-12
¥562
ISBN4-09-191252-4
C0179 ¥562E
9784091912527
定価：本体562円＋税
1920179005622
ポーの一族2
18世紀中頃、ポーの村。森に捨てられたエドガーとメリーベルは老ハンナ・ポーに拾われ、彼女の手で幸せに育てられていた。だが、バンパネラの秘密の儀式を見てしまったエドガーは…。名編「メリーベルと銀のばら」、その家系に繰り返し現れる2つの名前に隠された謎「エヴァンズの遺書」、バンパネラの追跡者を生みだした1934年の魔法の夜「ホームズの帽子」など4編を収録。
小学館文庫 萩尾望都 作品
11人いる! 全1巻
スター・レッド 全1巻
トーマの心臓 全1巻
訪問者 全1巻
11月のギムナジウム 全1巻
ゴールデンライラック 全1巻
半神 全1巻
とってもしあわせモトちゃん 全1巻
恐るべき子どもたち 全1巻
ウは宇宙船のウ 全1巻
ポーの一族 全3巻
Marginal マージナル 全3巻
フラワー・フェスティバル 全1巻
感謝知らずの男 全1巻
ローマへの道 全1巻
完全犯罪 フェアリー 全1巻
イグアナの娘 全1巻
海のアリア 全2巻
あぶない丘の家 全1巻

ポーの一族

第 2 巻

萩尾望都

目次

——ポーの一族　2——

メリーベルと銀のばら　3
エヴァンズの遺書　161
ピカデリー7時　241
ホームズの帽子　273
エッセイ　宮部みゆき　298

ナイフはやめておくれ
いいじゃないかほっといても死んじまうよ
早く！早く馬車を出して！
ヒヒヒイン
乳母や乳母や！
ガラ
ガラ
ガラ
ピシー
待って待って！乳母や！おいてかないで
ガラ
ガラ
乳母や待って！
乳母や！
オギャー

オギャア オギャア
オギャア オギャア
オギャア
オギャア オギャア
ふ
どうして？
どうして？
どうして？
どうして？
どうしてここはこんなに暗いの？
どうしてみんなどこに行ったの？
乳母や どこよ
乳母や どこよ
メリーベル

メリーベル
メリーベル
泣かないで
ぼくがいるよ
お兄ちゃまが
ちゃんと
いるよ
泣かない
で…!
……
まあ!
泣き声の
正体は
ここだよ
!
きとくれ
レダ!

おや 目がさめたかい 捨て子さん
……メリーベルは？
小間使いのレダがヒツジの乳をもらってきて飲ませてるよ
おまえも食事をおし
そんなにおどろいた顔しなさんな
わたしゃ老ハンナ・ポー 今日からここがあんたの家だよ
……あれはなに…
あれはばらだよ
春には咲くよ
あれはなに？
あれはスコッティの村だよ

霧の夜だって…!?
オレの女房が死んだ晩だ
森でだと!? あのばばあは森でなにをしてたんだ
…お館の老ハンナ・ポーさまが…
森で子どもをひろいなさったのだと
慈悲ぶかいおかたじゃ
おちつけよビルおやじ!
おまえの女房はちゃんとベッドで病気でもってくたばったんじゃねえか
うう
うそだ ありゃまっとうな死に顔じゃねえありゃ…
バンパネラにのどっ首しめられたんだ!
すきとおった銀色の髪の少女がいました
その あまりの美しさに神は
少女の時をとめました
戸口にゃどんどん火を燃やせ
窓にゃ十字架ニンニクつるせ
おねむり
おねむり

――とめました
それで少女はあしたもあしたも
おねむり……
いい子
大きくおなり
おなり
クイを用意しろ祈りをたやすな
殺せ！
あの悪霊を殺せ 殺せ
銀色の髪風に吹かせ
永遠の時を生きているのです
ばばあめ…
ばばあめ…
パンパネラってなあに？
この村の伝説だよ…バカバカしい…
おばあちゃまいくつ？
ほほいくつに見えるかえ

ぼくたち
なぜ
捨てられて
いたの？
そんなことを
考える年に
なったかね
なぜだろうかねえ
どこのだれの子
なんだろうね
いい服を
きてたよ
エドガーって名で
四つだって
妹のメリーベルは
生まれたばかりだって
自分でそういったよ
これ
なに？
ばらを
つんで
作った
スープさ
ウエッ
ズー
ねえ　でも
自分がどこの
だれかなんて
たいせつなこと
じゃないよ
あれ
カケス？
カケスの
お父さんと
お母さんだよ
おまえたちはこの館で
育ったんだし
わたしはおまえたちが
とてもかわいいし
メリーベルの
お父ちゃまと
お母ちゃま
いないの？
…だってほら
お兄ちゃまが
いるじゃないか
おばあちゃまも
いるだろ
みーんな
メリーベルが
好きだよ
だあい
好きだよ
だあい好き
だあい好き
だあい好き

お兄ちゃまー
お兄ちゃまあ
あん
おやおやおいてけぼりかい
水車作ってくれるっていったのに
悪いお兄ちゃまだねえ
おーよしよし
帰ってきたらメッしようね

かえ…帰ろうよ レミ
おっかね…よ
声出すな
今さら帰れっか
飲み助の牧師だろ
村長だろ
村役人だろ
そいで台の上おとつい難産でいっちまったセブんちの若い嫁さんだろ
墓地にうめずになにする気だ
どこ行くんだろ
ここいらでよろしゅうございますかな……
食うんじゃねえか？
ぬかせバカ！
このクイのひと打ちに
ヒッ

消え去れ悪霊!!
だれだ!
ちっくしょう村のガキども!!
おっどろいた…!
ハア
ハア
ハア
あ あの女の人死んでるのに
──バンパネラ退治だよ──
あの嫁さんやられてたのかな
バンパネラ?

エドガー
エドガー
わぁん
なに? なに なに
メリーベル
悪い お兄ちゃまを 一日中さがし まわって たんですよ
ああ ごめん メリーベル
ごめんっ てばさ
…森で クイを打って たって…?
シッ
いいから お忘れ… 森で見た ことなぞ
悪霊なんて いやしな いんだよ そんなもの
弱虫の 見た夢さ
おやすみ
おやすみ

わ
そっち！バカ
あふ逃がした
つぎくるぞでっけえぞ
よーし
エドガー！こっち手伝えよ
ちょっと待って
ほらできた川につけてまわしてごらん
うん
かんかん
シッ！
ビルおやじだ…！
墓ほりにいくんだぞきっと
あいつは頭がへんだよ
ビルおやじはへんじゃねえぞ
ビルおやじのかみさんは昔バンパネラに殺されたんだってよ
そんなものいないっておばあさまがいってたよ
ビルおやじは見たんだ
ひるは墓場でねむってて
夜になると血をすいにこんな顔して出てくるんだ…

きゃっ
メリーベルをおどかすなようそつき!
あっこのやろ
オレがいつうそついたよっ
いてっ
お兄ちゃまお兄ちゃま
でったらめだい
でたらめじゃないぞ
アチこいつ
村のもんぜんぶ言ってるぞ
おやめなさい!
やーい捨て子捨て子
すっころんで首のホネおって死んじまえ!
スコッティの村のやつらはみんなバカでぬけさくだ!
……
動かないで目にどろがはいりますよ

…ケンカは
ダメよ　あなたの妹が
びっくりして
泣いてるじゃないの
シーラ！
やっと
わだちが
なおったよ
おのり…
すぐ館だ
館…って
きみは——
きみたちは…
!!

そう
やっぱりだ
エドガーと
メリーベルだ！
何年ぶりだ
ろうね！
今いくつ？
今？
ぼくは
十一で
メリーベルは
七つ

おぼえてない
だろうね
そうか…そらっ
きゃっ
ほほ
ムリでございますよ
こちらはね
フランク・ポーツネル
男爵さま
ポーツネル
……？

五年ほどまえに
一度こちらの
お館へおより
いただいたことが
あるんですよ
ふーん
ふむ　いい子だ
美人になるぞ
やん
おひげが
いたい

さて…老ハンナは
お元気かな
あいさつを
してきたいが
エドガーくん…
そのあいだに
あのご婦人の
お相手を
たのむよ

……

そんなに かたくならないで おしゃべり しましょ
きれいな 村ね
スコッティは きれいな とこが たくさんあるよ
カケスの巣やね 水車のまわせる 小川やね おっこちたら 死んじゃいそうな がけ
まあ すてき!
あ あした 朝から案内 してあげる
ほんとう? じゃ 約束
おぼえて いらっしゃい ますか?
まえに わたしが お願いに あがった こと
あの女に もう手を つけたの かい?
まだ 指一本 ふれちゃ いません
わたしは彼女が 二十になるまで 待ったのですよ 五年間…!
まだ愛して いるのかい
そして これからも ずっと!
わたしたちの 一族と して!

チチチ
チチチ
チチチ
きれいな人きれいな人
—ぼくはお母さまを知らないけれど
——きっとこんなかんじじゃないのかしら
あの…花のむれはなに　エドガー
ああ　あれ…
あれは…スコッティ村のぬけさくたちがいもしないバンパネラなぞをこわがってうえたニンニクの花ですよ！
カチーン
カチーン
かちん
カチーン

シーラ
老ハンナが今夜あってくださるそうだよ
おお!
よかった——わたし——…わたし
…老ハンナおばあさまに今夜あうってなに…?
結婚の
結婚の許可をいただくの…あ…でも
ああ…
老ハンナ・ポーのお気にめすかしら…!
ああそう…
…そうなの
大丈夫だよきっと!
……
結婚したらかわいい子どもがほしいわ
男の子女の子?
どっちもよ!
とても愛してるの?

シーラかい？彼女が十五の時からずっと好きだった
こんなことはそのいいことじゃないが…
彼女は十六の時金銭的な理由からさる伯爵家へとついで――でも
わたしたちは…愛しあいまあ ついにかけおちしてきたんだよ…彼女はすべてを捨ててね
初めて彼女に会ったのはかの伯爵の婚約披露のパーティーの席
まだ十五であったシーラはもう貴婦人らしく髪をゆい房をゆらし思いきり細く腰をしめあげしなをつくり――そのくせ少女の声で話をした
それでわたしは一度で感じてしまった
彼女こそ永遠の婦人であると

わたしはすぐ老ハンナの館へ花嫁の訪れをつげた
そしてわたしは五年のあいだ待った
彼女が成長するまでただ彼女だけを見つめてきた
彼女も…
もともとたがいに望んでとついだというわけではなく
なにを失ってもこの愛をなくすよりはと…
わたしについてきた…
五年も待ったの？
…時間が…
もっと早くつれ出せなかったの？
いったのでね…

父ちゃん
おお もらって きたか よこせ
ほどほどに しとけって ばあさんが 言ってたよ
もう 墓ほり やめなよ
オ…オ オレの気持ちが わかってたま るか!
女房かえせぇ
ペッペ!
飲んでんのか ビルおやじ
いつもさ
なあペッペ オレたちな

ね ね あの
おばちゃま好きよ
お母ちゃまに
してよ
おちびさん
おやすみの
時間だよ
おばあちゃま
なんでも
できるんでしょ
そうしてよ
そうしてよ
メリーベル
おいで
お母ちゃまが
いれば
捨て子じゃ
なくなるもの
―男爵の養子に
なって町へ行くかい
――そうしても
いいんだよ
どこかで
ひょっとして
おまえたちの
両親に
会えるかも
しれない
ぼくたちが
いなくなると
さびしいでしょ
おばあちゃま
コトン
コトン
霧の夜
―
行って
しまった
馬車
―
どこか遠くの
おぼろな記憶…
ゆりかご…さんざし…
白い窓…
ま ねむって
しまって…さ
おかし
くださいな
ほんとに
あれは…
あれはいつかの
日びの
ことかしら…
あれ？

あずまやに灯がついてるよ…
一族を呼んであそこで婚約式をやるのがポー家のしきたりなんですすと
老ハンナさまが家訓でも話してらっしゃるんでしょ
さ！さっさとおやすみなさいましよ
婚約式…か
ポー家？
ぼくは呼ばれないのかしら一子どもだから？
ム！不公平だ
ぼくはおばあさまのお館の子なのに！
ザ
…あ！
たくさんの人たち…！
…どこから
…これがみんなポー家のひとたち？

わたし…暗くて足もとが見えないわ
こわがることはないこれは一族の儀式さ
さあ
老ハンナが
呼んでいらっしゃる…
あれは……老ハンナおばあさま…?
いつものおばあさまとちがう
なにかがちがうここ
静かすぎる暗すぎる
それでなくてもなにかちがう空気の色がちがう
フランクを愛してるね
老ハンナ心から…!
永遠に?
永遠に!

ともに歩み
ともに老い
ともにめされ
ともに土と
なるまで…！
ここに
この婦人を
永遠の命を
わけし者とし
わたしの濃い
直系の血を
…生気を
送り
われわれ…
ポーの
一族に
……
…きゃ…

だれだ！
子ども！
子どもだ！
つかまえろ！
儀式を見られた
逃がすな
殺せ！
お待ち！
わあっ

さわぐんじゃない！
あの子はすぐ帰ってくるよ
手をお出しでないよ
あの子はこのわたしの
館の子だからね！
老ハンナ！
あんたのやりかたは
最初から
気にくわなかった
あの子が逃げて
村にかけこんだら…
フランク…
…メリーベルを
つれといで
ん…？
のっぽの
おじちゃま…
さあ…
おいで
わたしと
散歩
しようね
エドガーが
森へ
かくれたんだ
見つけたら
勝ちだよ…

つかまえろ
逃がすな
殺せ
殺せ
わああ
ぎゃあ
ああ あの人
…あの人…！
あ
ジョージィ！ ロッド！ レミ！ ペッペ！
な な なあんだ！
館のエドガーじゃねえか
おったまげた
なにしてんだ おまえも墓地に行くのか？
ぼ 墓地!?
こいつはこねえよ
行くよ！ つれてって どこでもいいよ！
バンパネラ見に行くんだぞ！ じゃ おまえ いるって信じるか？
バンパネラ!?
んだ

首から血をすう…
そうだ 血をすわれて死ぬと―
死んだ人間は生まれかわってバンパネラになるんだ…
そしてまた血をもとめて―
じゃ バンパネラだらけになっちまう!
だからやっつけるんだ!
―どうやって…!
心臓にクイを打ちこむんだ…! ねむってるところを見つけて
クイ…
ちりになって散ってしまう ―

だれかきたっ
かくれろ

もっと大きい声でお呼び
おにーいーちゃーまー

メリーベルを お空に ほうりあげるよ

きゃっ
そうら!

キャア
出ておいで
エドガー！
シッ…シッ
行こうぜ
早く！
…ぼくは
…行けない
お兄ちゃま
お兄ちゃま
見つけた！
でないと
メリーベルを
お空へ
ほうりあげるよ…！
…その子を…
…おろして！
では…
おいで

まったく…

こんなふうに知らせるつもりじゃなかったけどね

その人を…
殺したね…
…首から血をすって…

血をすったのじゃないわたしのポーの生気を送りこんだのさ
これはフランクのえらんだ婦人だからね…

正式な儀式をひらいて一族の…
〝いちばん濃い血〟をわけあたえ…
死んでるように見えるが　やがて目ざめて——
目ざめてわたしと永遠の時を生きる

わたしたちはこのようにして一族をふやしていく——
彼女が望んでいた人間的な幸福…子どもを育てること…などはできないが
わたしたちは愛しあってるんだ—うまくいくだろう

なにをくどくどさっきから！さっさとその子のしまつをつけたらどうです！
秘密を知られたんですよ！

殺す気はないよ…

この子は一族にくわえる
老ハンナ
小さすぎます！一族にくわえるにはせめて成長期をすぎないと……！
もちろん今じゃない
十年たったらね
——十年はすぐたつさ
ぼくはそんなものにはならない！
わたしも不賛成だ　この子はいつでも村の教会へ助けをもとめに走るだろう
その時はメリーベルをまたお空へほうりあげる
……
ひきょうだ！メリーベルはなにも知らないんだ！
メリーベルはなにも知らないんだ！
兄さんが死んだら妹は悲しんで泣くだろうよ
おまえはなにも言わないね
……言わない！
おとなになったらわれわれの一族にくわわるね

メリーベルには手を出さないね……！
約束だよ
…もし…やぶったら……！
おまえたち……
一人残らず…クイを打ってやる…ぼくが死んだって！
ギ
――おいでエドガー

その婦人を見ておくれ
十分に血を送りこんだはずだから
変化が早いよ

朝までには目ざめるだろう

…あずまやの底に…これは墓地ですか？

すべらないよう気をおつけ
わたしの手につかまりなさい
ふるえてるね

わたしの手は冷たくて息をしてないだろう…？
わたしの一族はみなそうさ

どこまでおりるんです老ハンナ
すぐさ

その箱のふたをあけておくれフランク

ギ
ギ
ギ
おまえをおしこめやしないよごらん
…!!

大老ポー…こんなところに…!!

これはわたしのつれさ…
ちっとばかし動くことにくたびれてねむってるのさ…
ねむってる…?

…かれこれ…三百年以上…だね
一族の中じゃいちばん時を生きてる…濃い血を持ってる

おばあさまたちも……?

言ったろう不死身だって
年もとらない病気も大ケガもしない
わたしたちが生きてくためにはすこしばかりの——

人間の〝血〟がいるだけだよ
それでビルおやじのおかみさんも昔―!
あれは腹をすかせた無分別なポーだよ
…あさましいこと…!
バンパネラ!
!
そんな名よしとくれ
たしかにわたしらは神様の作ったものじゃないのだろうよ
どんな生きものも死ぬと…死体が残るのに
わたしたちはこの世界の人間じゃないのかもしれないね
天国のとなりか地獄のむかい別世界からきたのかもしれない
わたしたちは死ぬとチリになって風にとんじまう…ということは
老ハンナ大老ポーはいつ目ざめます
十年たったらちょいとおこそう…
かわいいエドガーの儀式にね…いちばん濃い血を…ね

おねぼうさん
お兄ちゃま
おきなさい
…！
つまんないの…
おばちゃままたち
帰っちゃっ
たの
もう
帰っちゃったの
つまんない！
ああ…
なにもかも
夢だったのでは
ないか
…血をすった
あと…!!
…目がさめたね
愛するきみ
おいで…わかるね
一族の血が
きみのからだに
流れていることが

目ざめたばかりで
くちびるが
かわいてるね
この子から
…ひとくちだけ
血をおとり…
その未来の
約束のために
首に——
——約束——
——おお!

すきとおった銀の髪の少女がいました
あまりの美しさに神は少女の時をとめ
どうしたのエドガー
少女の時を…
あなんでもないよ…メリーベル
ぼくは約束を果たさねばなるまい
ぼくはここから逃げられない
でもこの子は
この子は！
メリーベルには手を出さないって言ったね
そうさおまえが約束さえ守ればね
では メリーベルをどこかよそへやって！
この館からはなれてどこか…遠くへ…!!
バンパネラの伝説のない都市へでも!!
遠くへ！

お兄ちゃまもおばあちゃまもすぐあとからくるの？
そうだよすぐあとから
メリーベルさあ　おのり！
新しいお父ちゃまとお母ちゃまってどんな人？
とってもいい〝人〟たちだよ
そしてメリーベルのことを好きでね
だあい好きでね
―だあい好き―
お兄ちゃま！お兄ちゃま！
早くきてね！
メリーベル待ってるから！
待ってるから！
だあい好き
だあい好き
だあいす…
―さようなら―
もう永遠にあうこともない妹―

時が移る
あっ…
儀式の日が近づく
一年また一年と
ぼくの時のとまる日が近づく
手だては?
ビルおやじはあいかわらず墓ほりをやってる
手だては?
彼は信じて疑がわない
かみさんを殺したのがパンパネラだと
スコッティの村の住人が気がつけばいいのだ

館に住んでるのはバンパネラだとと!
——時がすぎるまえに——
クイをみがいて
おしよせてくればいいのだ
——ぼくがおとなになるまえに!
祭壇のいけにえとなるまえに!
あいよ でもオレたちは働かねえと食えんけど
おまえは遊んでても食えるけんやっぱ坊っちゃんだ
よう館の坊っちゃん
赤いほっぺのあの子がすきさ
赤いまき毛のあの子がすきさ
好き?
ヘヘッあいつこのごろ屋根ふきの娘を追っかけまわしてんだ!
よせよそのいいかた
…若い娘ならあぶないな…
…いけにえにえらばれるのはその子かな…
なんだ!
フフ!なあにうその話さ十年に一度いけにえの月があって
十年まえはペッペのかみさんを食った!うまかったぜ!
エドガー!
ビルのバカおやじが墓なんぞさがしているまにさ!
ワァ

おやめなさい！
ポーツネル男爵
あいかわらずだな
おのりなさい
館を訪ねるところなの
……
ロンドンをまわって　ちょっとアート男爵家をのぞいてきてみたよ
メリーベルがきれいになってた
…あの子はもう十だ　四つちがいだから
いつもぼくのあとについてきた
小さなメリーベル
小さなメリーベル
もう十…

きみは約束を守ってるらしいね
ギク
いい子だ
悪霊は……土に返してやるべきだ
すべて神のみこころのままに!
おや…いつお帰りエドガーさま
老ハンナさまとあわれませんでした?
いいや
急にこの霧でございましょう道に迷ったのではとたった今おさがしに
老ハンナも昔は人間だったのだろう
今もそうならよかったのに
それほど長い時を人の血で生きながらえて
そしてなにを見たのだろう
…いませんねえ…

…だれがいねえ
おどろいたビルおやじ
館のエドガーを見なかったかえ
…屋根屋の娘かい
きゃあぁ

消えた！
そうだとも！　オレは最初から知って…知って…
ああ　ああそうかこんなぐあいに殺したのかざまあみろ…オレは…知って…
消えた！
消えたぞ！オレは女房のかたきをうった！
…おお！

息子のペッペだ
あいつがいたとは!
知られた!
おお
おわりだ
あの館は……
ねじろはもう
おわりだ!

わああああ
エドガーのうそっ話を父ちゃんが本気にして
クイを持って走ってくんで追っかけたんだ
殺された！
飲み助の牧師を呼んでこい！
バンパネラに殺された！
ニンニクをつるせ！
十字架を！
戸口のまえに火を！
霧のあいだから見える…
村で火をたいてる
朝になればよせてまいりましょう
村人は六百名
館の者は十二名
勝ちめはございませぬ
こんなに…急とは…

この子の問題が残ってる！
小さすぎます 今 くわえるには
村中が この館の秘密を知ってしまった 今 この子をとどめておくのも無意味です
――しかし 老ハンナは――
この子を一族にと
大老ポー……
それがあれの望みだったのか？
ふん……
なんだ その品のない かっこうは……！
大老ポー
大老ポー
大老ポー

わしがねいって何年たった？目ざめるたびに世の中は殺ばつとして人の誇りは失われてゆく
今一七五四年です…ぐちってる時では…
あなたもお逃げにならないと…！
朝までには時間がある
今じゃない！約束では　ぼくがおとなになって
あれはいいつれだった
わたしたちはローマの灯を見フィレンツェの水を渡りともに咲けるばらを追った一族のいい血をふやしながら
それがあれの意志なら…
幸運な子だ！大老の血をもらえるとは
一滴でもとみなが望んでいるのに
…わたしがつがねばなるまい……

大老ポー
あなたは?
パタン
また
どこかの
地下室で
ねむる

…変化している
変化して…
ぼくの内部で血が肉が骨がすべての組織が
変化している…

血がゆるく流れ
からだが冷たく
こごえ
のどもとから
指先から
なにかちがう
結晶が
分裂し
成長して
からだ中に
ゆうるりと
ゆうるりと
ゆうるり
と……
時が
とまる
時が
とまる
…
とまる
きらめく
夏の日び
明日も
あさってもが
しあわせな
今日の日の
つづきだと
信じていた
日び…

目がさめて？
まる三日ねむってたわ
目ざめないかと思ったのよ
時どき血がなぜかしら和合せず
そのまま硬直して死んでしまうものもいるから――

ほらくちびるが すっかり かわいている
変化した 直後ですもの つかれた でしょう
わたしの 血を お飲みなさい
まぶしい!
真夏か? 今は!
エドガー!
エドガー! 急に外に 出るのは むりよ!
おもどり なさい!
ここは どこだ?
ここは どこだ!?
手が 冷たい 冷たい

あ
あ
うそだ
うそだ
あ
あ
ぼくがちがうぼくになってしまったなんて！
手が冷たい！
どけよどけよ小僧!!
あ…？

赤いばら
赤い血
館にも咲いてた
老ハンナは
ばらをつんだ

カサ

…白い
首すじ
あそこが
生気の
くぼみ
温かい
……
味のいい…
ぼくの手は
知っている
―どうすれば
生きられ
るか―

あ…
町……
そうぞうしい
人間たちの
世界
人間たち
―
かつてぼくの

エドガー！
気をつけなさい—
うろうろ歩いていると車輪にまきこまれる
町は初めてだろう めずらしいか？
…！
なんて目で見てる？
これからはわたしたちといっしょだ
おまえはわたしたちの息子だ
変化は完全じゃないわ…
あの子はまだ…
人間であった時の意識に強く支配されているわ
あの子は飢えて死ぬ気なの
目をさまして一滴の血も飲んでないのよ

ああ いつもいつも
一生が幸せな
今日の光のつづきであると
信じていたころ
あとをついてくる
小さな妹を
いつも立ちどまって
待っていたころ
…すべて過去
…すべて過去
…さよなら…
メリーベル…
そうとも
メリーベルは
無事だ
たしかに
約束は
成り立ったの
だからな
それを望んだのは
おまえだったな
ああ
そして
あなたたちは
望みどおりに
したね
おめでとう
おめでとう——もう
用はないだろう
——ある！
おまえは大老の血を
ついだ
最も濃い血だ
それは それだけ確かに
生きのびられる
確率を示す
貴重な一族だ
このまま
だまって

…飢えて行くのを見ているわけにはいかない
一度味をおぼえればいい
おぼえたりなんかしない！
ここだ見えるはずだ変化した目の中に
首すじによどんでいる生気が——
手を——
からだ中がそれをほっしているはずだ
手を——
指先から——くちびるから
それは流れていくすうことができる
手を……
はなせ！

どうでした
最初の味は
…もうおぼえて？
エドガー
わたしたちは
あなたが好きよ
大切な仲間
仲間…
ぜんぶの人間が
バンパネラに
なってしまえば
いい…！
そうすれば
かくれすむ
必要もない
そうすれば
異端に
おびえる
必要もない
あっ！
ピ
……
…ぜんぶの人間を
引きずりこんでしまえ…！

コウノトリがね
コウノトリが赤ちゃんをはこんできますよ
ええ
坊っちゃまお兄さまにおなりになるのですよ
ほんと？乳母や！
もうじきですよ
ほんと？それいつ？
ほんと？妹？弟？
どちらでしょうね
妹がいいな
あ…！

血がほしい…
ほしい! 生命のかて…!
あの色はどうだ…
ぞくっとする…
きっとぼくはとうにくるってるんだ!
人間であることをやめたときから
くるってる!

あなたは自分を呪わないのシーラ
なぜ?
…なぜ?
なぜ?
どこのご子息かしらねえよくこの道おとおりになる
……

あ…
シ…っ
テリー
き…ゃ
キャーあ

あなた!
したくをしろ!
静かでいい町だったのにさわぎがおこってはいられない!
年のこうだけあって急所を知ってるねあなた
クラクラする…
食事しただけだよなぜ悪い?
食事だと!がっついたものだなこのバカが!
老ハンナが聞いたらなんというか!

あの娘は
小さい時
借金がわりに
奉公に
出されて
出先の主人が
破産したため
やっと
帰ってきて
母親と二人で
暮らして
いたんだ
ガタ
ガタ
ガタ
のぞかんで
いい!
これから
わたしに
だまって
勝手な
行動は
許さんぞ!
……
……
奉公から
帰ってきた
娘……
母親は
悲しんだ
ろうか
母親…
ぼくには
いない
昔の
夢は
ずいぶんと
おぼろだし

メリーベルとの
館の日びが
幸せの
思い出…
もしなにも
知らなければ
なにも
おこって
いなければ
どうしたん
だろう…

人ひとり
殺して
後悔も
ないなんて
まるで
この手と
おなじように
冷たい
あなたたちが
おこってるのは
ぼくが善良な娘を
殺したからじゃ
なくて
それによって
さわぎを
おこした
からだ

感情は
どこに
おいてあるの？
同情してる
わけでは
決して
ないね？
ガタ
ガタ
ガタ

みのった
麦をかって
人間が生命を
つなぐなら
われわれは
人間を
かって
生命を
つないで
いる

ただ
われわれの
麦は
知恵を
持っている
あなどると
こちらが
やられる

サワサク
サク
サワサク
サク
麦…
カーン
カーン
そして
この穂の
どこに
メリーベルが
いるのか
いつまでも
いとしい
ぼくの
小さな
妹が
いるのか
ふしぎ
だ……
こんなものに
なってまで
生きている
のか

A BALLET created for
margot fonteyn by ...

そちらのほうに関心があるならおいきになってもよろしいのよ
...eternity and the briefness of life
とんでもないマドンナ！あなたの声に聞きほれてますよもうずっと
どうぞつづきを
ザ
ザ
あ…ごめんなさい…
…ひょ

なんだ ガキじゃないか
美人になるぞ!
ハハ まっ赤になって かわいーい
おもしろくなりそうだ おい!
オズワルド!?
おい
──だれだ? どこかでまえに あったことが ──たしかに ──どこかで
なんてかわいい足
おまえら!
わ! おてんば!
あ!
つるっ
おケガは……!
あ〜
エ……
ガチャン

エドガー!
ぎゃー
エドガー! エドガー! エドガー!
レディー レディー どうぞ
だきしめられるのは いっこう かまいませんが
どうぞ オズワルドと 呼んでくださいませんか
オズワルド!!
じゃ あの エヴァンズ伯爵家のご長男!
どうしましょ
プレイボーイって うわさですがね
メリーベル 髪をくずしてはいけませんよ あくまで上品に しとやかに そうすれば ひょっとして…
メリーベルは どこ?
さっき おさそいがあって 馬車でおふたりで
…いいさ そんなにもにてた?
エドガー兄さんと 別れたのは 七年まえなの
七年もまえ? それっきり あわず?
…このあいだは ごめんなさい

そりゃ あわなくても わかるわ 兄さん ですもの! とっても 青い目を してたのよ!
わたし どこにいても どんな姿だと してもわかるわ もし会えたら すぐに エドガーだって
だって エドガーは エドガー でしかないん ですもの
わたしは たしかに 彼女に どこかで あったし見た おぼえが ある――
彼女は わたしが 兄ににてると いうし ふふ おかしな 縁だな
兄さんは いくつ?
十七の はずよ あなたは?
わたしは二十二だ …もしおなじ年だったら ふたごみたいに にてたかな?
ええ きっとね! まるでおんなじ 目をしてるもの…
育った スコッティの村は 緑の森と 小川があってね
いっぱいの ニンニクの花が 咲いてて…
バンパネラの 伝説が あったのよ …!
バンパ ネラ?
死人が墓から よみがえり… 人の生き血を すいにくるの …こわい?
はは…! こわいね
ん… こわがって ないくせに

ああ
ほんとうに
遠い日――
こんなに
はっきりと
思いうかぶ
のに――
あの夏も――
あの春も――
あたしいつも
エドガーのあとを
ついてまわってた
よく水車を
作って
くれたわ
ほら
メリーベル
なぜ　はなれ
ばなれになった
のかわからない
なにか
わけが
あったの
だと
思うけど…
…会いたい……
…この不幸な男は
小川で水車を
まわしたことなぞない……
…きっときて
くれなけりゃ
いやよ
あたし
待ってるって
何度も何度も
言ったんだから

ギクッ
いや
その…！
水車を
作ろうと
して…　でも
むずかしい
もんだね
どうしたの
この指の
ケガ
失敗しち
まって…
水車
……！
ちゃんと
あるじゃない！
作ってくれた
のね！
いじわる
オズワルド！
おどかしたの
ね！
どこかの
子どもが
忘れて
いったの
かな
まあ　この幸運な誤解を
とくこともあるまい
なんてかわいらしく
笑うのだろう
…この少女は…！

おっどろいたね！ロージャの森でさ
あのオズワルドがこの寒いのに水車をまわしてるんだぜ！
いいのかいマドンナ！第一崇拝者をとられて！
ほっておおきなさいな
相手は十三歳のねんねちゃんじゃないの
だが結婚はできる年だ社交界にも出てるし
なによりもオズワルドのエヴァンズの家系ってのはロリータ・コンプレックスがおおいんだ
さあそんなことよりタロット・カードでもやりましょ
今日はどなたがわたしを笑わせてくださるの？
十三歳のねんねちゃん水車をまわしてたですって？
まったく人がちょっと目をはなすと…

ジンチョウゲ
ジンチョウゲ
金色ににおうよ
まといつくのよ
まといつくのよ
あ!
愛してる
ジンチョウゲ
ジンチョウゲ
金色ににおう
サク

まとい
つくよ
サワ…
メリーベル？
まとい
つくよ……
サ
…あ…！
どうした？
──
なんでも…
わたし
──わたし
王子さまを
見たの
──
金色の
王子さまよ

王子さま？だれかいたの？
クス
ええすきとおった人よ――
光がぜんぶしずくのようにこぼれておちてたわ
すきとおった人よ……
まあどこに行っていたのおまえ
館に帰りますよいらっしゃい
――はい
一人で行ってはだめだといつも――
おやジンチョウゲね
ええさっき――
まだつぼみじゃない
わたしに？
え？
…え
お好きなら
まあありがとういつもやさしい子ね……

メリーベル

メリーベルや？

ちゃんとまえを見ていないとだれもダンスにさそってくれませんよ
は……い

へんなわたし
あのかたのことばかり考えている……

春先の光の精だったかもしれないのに……

どこのだれともわからないのに…

母さまお願いがあるんですけど…

え？ なんですユーシス

踊ってもかまいませんか？ …一曲だけ

そうね 今夜は若い娘がおおいようね

一曲だけよ すぐもどってくるのよ

！

そうして
そのかたは…
わたしの手をとって…
すべるように音楽のなかにはいりこみ…
それは
みじかいメヌエット
始まったと思うともうおわり…
なんにも話さずじまいで…
それでぼくの友だちのステファン・オクスフォードが
そのあときみと踊って足をふまれっぱなしだったってわけだ
そのきみの恋の香りゆえに
…恋？
エドガーのことを話さなくなった
ユーシス…
ユーシス!?
おいで！

オズワルド？どこへ——
いいからついておいで！
これはあなたのお城？ずいぶん大きいのね
まあおいでこっちだ
たぶんサロンだろう

お美しくて…
まあほんとうにおじょうず
これは一度絵になさらないと
ええいい画家をさがしてますのよ
お美しくて…か！
まったく母うえのサロンのいいなぐさみものだな！
オズワルド
これはみなさんお集まりのところでご紹介しましょう
オズワ…
アート男爵家のメリーベル嬢！もっかわたしの恋人!!
メリーベル!!

ああ
まちがいない
まちがいない
あの女だ
あの女の娘だ
メリーベル!
…あ
恋人――!
お…
メリーベル!
オ　オズワルド
すぐ出て
おゆき!!
お客さまの
まえで　なんと
いう失礼を!
失礼?
失礼!
失礼!
退場しますよ
エヴァンズ家の
不良息子はね
…!

…母さま！
ドタ！

わたしは長くはもたないわ
オズワルドの顔を見ると胸が苦しくなる

母さまそんなことをきっと兄さまに悪気はないのですよ
おまえの半分でもやさしければねえ あれが

ユーシス
おまえだけよ
わたしの味方はユーシス

おまえだけ…

…生きてた
あのきょうだい殺したと思ってたのに……

いつも兄さまが心配かけるから母さまは…

…ほんとうに…兄さまは子どもみたいだ わたしより ずっと年上なのに…
からだの弱い母さまのことをもうすこし考えてあげてもいいのに…

恋人だって？　とてもそうは見えなかった　たぶん　また兄さまの悪ふざけだろうけど…
…あの少女を兄さまも知ってたなんて…
ひどいわ！
ひどいわ！　ひどいわ！
こんないきなりつれてきて…いきなり…会わせて！…あんな！
まるで言わなかったじゃない　ユーシスがあ…あなたの…あなたの
そ　弟！
まァまおすわりよお嬢さん
…そんないいかた…！
にてないだろ？　彼は　母うえの秘蔵っ子で　いい子ちゃんのお人形さんさ！
あの森かげにあるのが父の館だよ　エヴァンズ伯爵
両親は仲が悪くてね　べつべつに住んでる
さて　先ほどのユーシスの反応ぶりからさっするに　ユーシスはまるで　きみに無関心でもないと見た！
パン
ガチャン！

イルリー乳母？
…これは！年をとると…手もふるえまして…すぐかわりを
…！
…ちょっと待っててくれ…すぐもどる
？
ガチャ！
うばやまって！おいてかないで
まって！うばやうばや
おお…おお…メリーウェザーさま…！
メリーウェザー…だと？
メリーウェザーだと!?メリーウェザー
…そうだ！メリーベルをどこかで見たと思ってたがメリーウェザーに似ているのだ！もうずっと昔に死んだ
父が若いころ愛していた娘！
…子ども…が!?

こどもが……!?

ちがいます!!

ちがいます! ちがいます! そんなはずはございません

たしかにたしかにメリーウェザーさまにはお子さまがいらっしゃいましたが

乳母め…！
まっ青になって
昔 なにか
やらかしたな
オズワルド？
馬にのって
どこへ
かた
あ！
きゃ…っ

待って！
動かないで…
からみついてます
すぐといて
あげますから
最初の
出会いと
おなじだ
しかも
その時のことを
…たった今
思いかえしていたら
香り
が…
あなたの
髪が
からんでる
木の花の香りです
いたずらな小枝よ
もっと髪を
からめておくれ
なんの木？
ジンチョウゲ
陽だまり
なので
どこよりも
早くつぼみを
つけるのですよ
この時が
すこしでも
つづくように
つづくように
サラ
サラ
サラ

エヴァンズ伯!!
もしくは父うえ!
バタン

これ…だ…！
メリーベル…！
オズワルドか？
いつもそうぞうしいやつだな
かけこんできてなんの用だ
この絵がどうかしたのか？
父上は昔…

わたしが…子どものころ
この絵のまえであなたの恋の話をしてくださったことがあった
春らんまんの花の中
香るさんざし白い窓
ああ　あったろうさメリーウェザーは美しくわたしは若く
もう一度聞かせてもいいぞ
メリーウェザーの子どもたちが生きてます…
緑のコテージで娘待っていた
エドガーとメリーベル
二人とも生きてます
メリーベルのほうはアート家の…
わたしの…子どもたちが!?
そうだ二人ともだ…!
あの水車を作りにきたのはだれだ!?
四　五人の恋人は貴族の常道かえっていないとバカにされ
もとより親どうしの決めた結婚わたしもずいぶん遊んだが…
メリーウェザーかのおちぶれた男爵家のすえ娘
彼女だけには心をつくしひたすら愛ししげく通い

もうすこし くわしく話せ
オズワルド! なぜそれが わかった
水車が…いや
毎日…会って たんです彼女と
一目見れば わかります 母親そっくり なこと…
…兄のほうは ゆくえが しれないが
…
父上
母親 そっくり か…
はやり 病で 死んだと 乳母に 聞いて いたが…
そうか そうか 生きて たか
……
わたしの
子ども たちが
……
はかなきは 恋の日 はかなきは 恋の夢
はかなきは あこがれ 待つ日び さぐりいる 昔……
金色に におう
兄さんが 迎えに くるのを 待ってるの
あなたと おなじ 青い目を してるわ オズワルド
ジンチョウゲ ジンチョウゲ

からみつくよ
からみつく……

愛してる…

いとしい
いとしいと思い

心ひかれたのは
わたしの…

妹だった
からか…

メリーベル・アート
夜会にもきてました
兄さまがいたずらっけをだして恋人だって…
おやめ!! ユーシス!!
アート家の養女ですよ！どこのウマの骨とも知れない
おまけにオズワルドと気があってるなんて
ゲスな女に決まってます！
母さま！
そんなことはありません！…とてもやさしいすなおな子です
どうぞ一度会ってください
その話はやめてと言ってるのよ！
ユーシス
おまえにはロンドン中さがしたっていちばん美しい娘を母さまがえらんで花嫁にしてあげます！
おまえはいつもいい子だったわかわいいユーシス
わたしにさからったことなどなかった
言うことを聞いて！お願いだから
母さま
ユーシス！母さまにはおまえしかいないのよ
言うことを聞いて！

よーっ！ごぶさたオズワルド！
その後どう？ずっと例の小娘のおもりかい？
春は芽ぶき始めたオレはせめやせんぞべつに
血すじは争えん！おまえのおやじもガキ好みで昔…
だまれアヒル
……
ざしゃーっ！
ぶ…ぶ無礼な
決闘だ！
決闘!!
決闘をもうしこむ明日の朝六時!!ロージャの森だ！
朝はねむい
夕がたにしろステファン
バカいえ！ちゃんとおきてこい!!
オズワルド
ステファン

オズワルド…!
ステファン・
オクスフォードと
決闘だと!?
オズワルド!
おまえはいつも
バカなことを

おや
…ご両人

つまりこれは
愛のムチですか
ほったら
かしにしてた
息子でも
死ぬかも
しれぬとなると
心配ですかね
オズワルド

まあ
わたしが
死ねば
ユーシスが
爵位を
ついで…
母上は
ばんばん
ざいですね

ユーシスには
あとをつがせん!
息子が生きてる
かもしれんのに
なんですって!?
ユーシスは
息子じゃないって
いうんですか

そうだ!
ま…ま…
そしてあなたは
ゲスな女に
生ませた子を
息子だ などと
本気で…!!

社交界の
いい恥ですわ!!
許せませんわ
そうなったら
わたくしだって
キィーッ
つづきは
外で
どうぞ

……手紙一つ ゆっくり かけん
…見ろ 名もんくを忘れてしまったぞ!!
この寒さでは また雪かな
なんと ロマンチックで あることよ
死ぬかも しれん…
なにが 悲しいって いうんだ? オズワルド おいおまえ
なにが 悲しい?
それが わかれ ばね…
ああ そうさ だれも オレのために 泣いてくれ ないだろう から オレが 今 追悼して やってるんじゃないか
アート男爵家 令嬢メリーベルへ…

ふ…っ
寒い…
雪だ
忘れ雪だな
オズワルド兄さま…
こんな早朝にどこへ
マドンナ
もうこんな女がいることなどお忘れになった?
カゼをひくぞ
見おさめになるかもしれない顔を見にまいりましたのよ
…オズワルド…

カカッ
カカッ
……
…エドガー…
エドガー!!

ようし　定刻遅れずによくきた
ちゃんとおきられたようだなオズワルド

えらい人数じゃないか
坊主も呼んだろうな　えステファン？

用意は？
ここに銃が――

単発だ　一度ずつ引き金を引く

距離は？
十ヤード
早くしろ　この雪ひどくなりそうだ

先に
ステファンが
引き金を引く
次に
オズワルドだ
双方とも
それたら
火薬をつめて
もう一度
それまいよ
なあ
ステファン
カチ!!

不発か
こんな場合はどうなるんだもう一度引くか？
それともわたしが撃つ番か？
——どうぞきみの番だ

メリーベル——
いつもそばにいたんだ——
メリーベルさま
手紙が…?
ユーシス…かしら?
きみが気づかなかっただけで
親愛なるメリーベル
水車のことでひとこと。きみは
感謝していたが、実はわたしが
つくったのではないのだ
ことによるときみの兄上かもしれぬ。
ぞんがい兄上は近くにいるのかも
しれぬ。
オズワルド
エドガー? エドガーですって?
オズワルドはエドガーを見たの…?

いつも
そばに
いたんだ——
ぼくは
もうすでに
たそがれの中
霧の中
色もなく
香りもなく
手折ることも
かなわぬ
まぼろしの
銀のばらに
すぎない
けど——
それでも
いつもいつも
メリーベル
妹よ——
きみだけを
見守ってきた
しげりの蔭
風の間から
きみの声聞き
きみの笑みを見
だれよりも
幸せにおなり
陽だまり
花の香
笑い
夢こそ
きみにはなにより
ふさわしい
……
どうなさっ
たんです
お早いこと
母さま
お…
…お
ユーシス
オズワルド
が……
きみは幸せにおなり
だれにうしろ指をさされる
ことも　恐れられる
こともなく
なんでもね
アート
男爵家の
令嬢を
争って
フン
フン
フン

今　今オズワルドから手紙をもらったの！
彼はいる？
メリーベル
ユーシス？どこへいくの？
決闘…!!
……なんてことを！
ユーシス！
手紙…？手紙だって？オズワルドがなぜ…わざわざ…！
アート男爵家の令嬢を争って
なんなのなにかあったの？
数行の手紙をなぜ今朝オズワルドは…

争って!
寒くて
かなわん
もっと
センを
ぬけよ!
アッハハ
あのカフェ
の話を
聞いた
かい

もちろん
すごくいい
女だった！
それで
オレは
いかに
して
おい！
あれは
なにを
かくそう
わが弟じゃ
ないか！
死体を確かめに
きたのか？ ハハ
生きてるよ！
まったくね！
双方とも
四度
引き金を
引いたが
不発だった！
残念だな
爵位をとり
そこなって
え？
ま
飲めよ
あったまる
健在なる兄と
その悪友を
祝ってくれ！

カラララララ
あなたって人は……！
ヒュー！！
いせいのいい弟だ！
聞くと見るとじゃ大ちがいだな！
これがお人形さんか！？
あなたはヒレツだ！
あなたのような人に………
だまってろー！
オレのような
メリーベルはわたさない！
オズワルド……！
おい！まさかあんな子どもを本気で…

よくいったな！それほどまでメリーベルを愛してるのなら…
なにを知ろうとなにがおころうとあの子をうらぎらないと誓えるな！
偽善者ぶって身をひくとでもおっしゃる気ですか！
妹でなかったらだれがおまえにわたすすか
な…なんですって!?
……………！
メリーベルはメリーウェザーの娘だ！父の愛人だった女の……
母さま…の…金髪の…
……わたしは
母うえの猛反対はさけられんぞへたすりゃ絶縁だそれでも愛してるな？愛してるな！
そして…知っていたか？おまえの父はネーデルランドの若い宮廷楽師だった
やはりみごとな金髪のな
さあ誓えあの子を幸福にすると…！
…なにも知らずにずっと母さまをひとりじめにして……

……
オズワルド…
誓います 愛しています わたしに 語れる たったひとつの こととして
どうぞ 許してください なにも知らなかった
どうぞ……

……
どうしたの…
なんなの？
あたしには
なにもいって
くれないのね
ただ
単に
幸運な誤解を
ときたくなった
だけですよ
あの手紙は
エドガーを
見たわけ
ではないのね
？
いや…
おいでよ
メリーベル

歩こう
春だよ
…エドガー
か…
なぜ姿を
見せないの
だろう
なにか
わけでも
あるのだろうか
あこがれよ
夢よ
しばしば
思い出に
生きる
ものよ
うちすてよ　銀のばらを
手折ることのかなわぬ
うつし世の愛を
ユーシス…！
とられてしまう
わたしの
ユーシスが
あなた　恋人は
やさしく暖かく
息をくちびるに
吹きかける
その確かな今の
時とともに
わたしの
愛する
息子が
おお！

ロンドンをたつって？
…ええ
おまえたちを捨てた両親のことがわかったそうだな？
それと兄弟とね
捨てたかどうかはともかく…もう…いいんだ
もういい…
ユーシスがいる
…ぼくのかわりにメリーベルを一生守ってくれる…きっと！
では…出発するか
三年近くひとつところにいたのは初めてだ
……
両親にあってこなくていいのか？
へえ…？思いのほかあなたはセンチメンタルなんだね男爵！
バンパネラの息子が人間の父親にあいにいく？
こっけいだよ！早くこの町を出よう！
ゆりかご…
早く！
…香るさんざし白い窓……

どこか遠くの
いつかの日びの
人間であれば
かなえられたで
あろう夢
…さよ…なら
…しあわせに…

お許しをいただいたおカネだけのことはいたしました！
いいやおまえは情が移ってとどめをささなかったのだよ！
さんざしだらけのいなかの家で
子どもの子守りをしてるうちに！
伯爵夫人！
ほんとうに!?
いいえ森で
ええ森で…殺して…殺して
その血ですその血です
エドガーさまとメリーベルさまの…！
ええ！
ユーシス…!!
ど…う
…どうしろと言うの！
みんなおまえを愛してるからやったのよ！
おまえをりっぱなあとつぎにしようと
オズワルドだって殺してかまわないおまえだけがささえなのよ！

お産のあと
ぐあいが悪くて
病弱だった
メリーウェザーの死後に
残った子どもたちを
正式に引きとると
いい出したのよ
伯爵は！
ユーシス
おまえ
だけを
おまえ
おまえ
やめて
夫を盗んだ女の娘が
今度は息子を
かどわかして……！
許さない！
一歩でも
はなれないで
はなさない！
おお　おお
ユーシス！
やめて
かあさま！
わかってます
わかってます
あなたが
悪いんじゃない
どこへも
行きません
行きません
かわいそうな人
…かわいそうな…
……
メリーベル…

おまえの父は
ネーデルランドの
若い宮廷楽師
おまえに
にた
金髪の
だれが
悲しみを
せおう?
わたしか?
母さまか?
メリーベルか?
…生まれて
きては
いけなかった
のかも
しれない
…馬車を
とめて…
いざ出発と
なると
みれんが
残るか?
そうじゃない
血のにおいが
あら…ほんと
風にふくんで
ロンドンは
ぶっそうな
町だからな
まったくいつも
事件ばかり
おこってる
ピチャ

そのナイフをよこすんだ!
はなせ!
う…っ
バカ!メリーベルになんという気だ!
メリーベルを愛してる母さまもどちらも
…うらぎれな…いか…ら

…エドガー
エドガー!

サドザー
じャぶー…!!

初めて人を殺した時
ああ あれは 黒い髪の 母親と ふたり暮らしの 少女だった
その時ですら ただ 自分のみを あわれんで 泣いたのに
ユーシス
ユーシス
ユーシス！

まあ　お聞きになった?　恐ろしいこと!
エヴァンズ邸に悪魔がはいってユーシスさまを骨まで食っちまったんですって!
大さわぎよ　伯爵夫人は三度も気絶なさるし
司祭さまがいらして聖水と十字架を窓や戸口においてらっしゃるのよ
……エドガーだった!

う…そ
うそ!
エドガーが
ユーシスを殺すはず
ないわ!

わたしの目は
彼とおなじでは
なかった?

わたしが
きみの言う
エドガーでしか
ない少年を
見まちがっ
たりするか?

そして
彼は
青年には
見えなかった
彼はきみと
四つちがいで
ずっと大きい
はずなのに
ね
なにが
彼の成長をとめ
たんだろう?

なぜ彼は
われわれの
まえに
はっきりした
姿を
見せないの
だろう
きみが
待っている
というのに
それは
エドガーじゃ
ないわ!

エドガーじゃ
ないわ!

そうだ
あれはエドガーで
あるはずがない!

きみの育った村には伝説があると言ったね！バンパネラの
彼は小さかったきみのエドガーは十三か十四の年に死んだのだよ
死んだ……
あれは墓場からぬけ出したくるった悪霊だ！
エドガーじゃない！エドガーがそんなことと！
とてもやさしかったのよ！あなたは知らないんだわ！
うそ！ちがうわ
ユーシスは殺された
あなたは水車を作ってもらったことなんかないくせに！
水車を作ってもらったことなんかないくせに！
カーンカーン
カーン

まあ！エヴァンズ伯爵夫人！
光栄ですわ わざわざいらしてくださるなんて！
…… まあ ほんとに このたびは
じつは おりいって お願いが
おたくのお嬢さま…
養女に！
ま！ これは ゆくゆくは オズワルドさまの 花嫁となさる気だわ
男爵家から 伯爵家になんて 願ってもない
おなじように 愛するものを 失って さびしくて…
これはユーシスの 愛した娘 ユーシスを 愛した娘 わたしの気持ちも わかるでしょう

ほろほろ
よせよ イルリー 乳母
はい はい
あら! まエヴァンズ伯爵
これはエヴァンズ伯爵夫人
…あ… ごきげんよう メリーベル いい風だ
ええ 伯爵
ふしぎな和が もどってきた

ユーシスのお父さま
ユーシスのお母さま
ユーシスの兄さま
ユーシスのいた家
ユーシスの歩いた庭
ユーシスは?
きっとそこらの葉かげにいるわ
…ユーシス…
ふりむいたら笑って逃げるんだわ
わたしは信じちゃいないもの ユーシスが殺されたことなんて
ただいないのがさびしいだけ
だから呼ぶから出てきてちょうだい
ユーシス!

ほんとにかわいい子ね
ああたいくつしないよ
話相手になって?
いいやさほど…!むこうがわたしを話相手にしてる
それであの子はあなたのなんですの?
…あれはメリーウェザーの娘だ
花をつんであんで輪にして
でもジンチョウゲはきらい

伯爵…！
ガターン
あ…
おどろいた
絵がはずれて
おちたのね
……！
ドクン
ジンチョウゲは
きらい
香りがきついし
髪にからむ

…そうだ 他人じゃない 妹なんだ
知ってた だろう ユーシスと わたしが 父親のちがう 兄弟だって こと
メリーベルの 母親は 若くして なくなった 父が このうえなく
いとおしんだ メリーベル そっくりの 人だっ…
エドガー!!
エドガー! エドガー!
捨てっ子の お母ちゃまが わかった おばあちゃまやら レダやら 困らせっぱなしで
泣くたびに お兄ちゃま 水車を作って くれて
そばにきて そばにきて エドガー 水車が ほしいのよ!
いや! どこに いるの! どこにいるの!

キャああ
ああ

メリー
ベル！
さ…
出なさい！
ユーシスが殺された部屋だ
母上がそのままにして手をつけさせせないんだ
これはなに…！
この部屋はなんなの！
…ごめんなさい
オズワルドに…い…さ…ま

ユーシスは殺されたのだ
——確かにエドガーに……
……お……
エドガーに——
シッ今夜は早くおやすみ
オズワルドうん?
もう平気よナイフをちょうだい
オズワルド愛してるわ!
伯爵も伯爵夫人もこの家もわたしみんな愛してるわ!
ユーシスも!
だからナイフをちょうだい!
わたしこの家の娘になるの!

銀の細いやつをあげる
まくらの下に入れておねむり
弱そうに見えて わたしなんかの百倍も我の強い子だわ
あの子のお母さまもそんな人だったの?
さあ知らん
狂信するタイプよ
ほんとうにこの家の娘になれるかしら?
あの子が銀のナイフでたち切りたがっているのは なんなの?
送っていくよ
あらマフがないわ
誓います わたし自身に
わたしはエヴァンズ家の娘 わたし ユーシスを殺したものを憎むわ
もう エドガーは 決して
わたしのために水車を作ってはくれないのだ

エドガー
もうおまえは
いらない…
そうとも
あの子は
成長する
ぼくをこえて
…こえて
帰らない
思い出を
忘れ
ぼくを忘れ
ユーシスを
失った
悲しみをいやし
そしてやがて
新しい幸福を
あしたに
見つけ出す
幸福を願っていたのではなかったか?
………忘れられる
………それがなぜこんなにつらい…?
それだけ
メリーベルが
ぼくを忘れないで
いてくれる
たったそれだけのことが
こんなにも
失いたくない思いの
すべてだったなんて

母上
マフを貸してください
マドンナのは庭でなくしてしまったっていうんですよ
お待ち
ガウンを着るから
まくらの下に…？
ユーシスの部屋はかたづけてしまったらどうです？
カチャッ
パサ
母さま許してください
すべての人を
メリーベルも
メリーベルの母上も
伯爵も
わたしも

わたしは公平に
この身を土へ帰します
これは
ユーシスの…!?
母上はこれをどこで…
…おそらくは
ユーシスの部屋で…
あなたは…
ちがう!
ちがう
ちがうああ
ああう!
こんなに愛してたのに
あの子 あの子が
自殺なんて
うそよ!
あれは
事故だった?
ユーシスは
死ぬ気で…
母上その
愛のあまりに
ユーシスを
追いつめ
母さま
許してください
追いつめ
たのは
それとも
わたしか
許してください
すべての人びとを
…おまえ…
バカな!
メリーベルを
おいて……

ハンプティ
ダンプティ
死んでしまった
白ねずみ
くだけた
ガラス
食べちゃった
お菓子
すべて
もとには
もどらない
だれよりも
メリーベルの
幸福を
願って
いたのに
…願って
いたのに…

目がさめていたの？

ちがう
エドガーじゃない…！
…ええ

ああ ただ
さよならを
言いに
ぼくは
仲間たちと
今夜
発つんだ
これっきり
会わない…

これは――これは
……エドガーではないのだ
さよなら

これはユーシスを殺した悪霊だ!!

ユーシスを殺した……!
どうしたの? 早くおやり

あ
あ
あ
わたし待ってたのよ！ずっと待ってたのよ！
エドガー！
エドガー！
エドガー！
それはユーシスを殺したものだぞ！

死霊の青い目…！
わたしとおなじ青い
おなじきょうだいの…

もどれ！もどってこい！
もどってこい　どこへ行くんだ！
エドガー！
メリーベル
ユーシス
行くな　もどってきてくれ
サク
みんなわたしをおいていった！

バカね…ほんとに子どもみたい
世にもまれなる美女がそばにいて
あなたを熱愛してるのよ
みんなわたしをおいていった
……!

おいていきませんとも……!
わたしたちは結婚するのよ
そして子どもを産んで育てて
まろやかな家庭を作るのよ
なにもかもとりもどせますとも……

「メリーベルと銀のばら」 1973年12月

エヴァンズの遺書

神よ
わたしたちの生涯は
多くの生命の上に
きずかれてゆきます
わたしはこの世では
もう死んでしまっているはずの
二人のことを
わすれることができません
わたしの——兄妹
まったくバカげているが
のちの世にたくして
遺書を一通
かこうと思います
——これは気やすめだ
——だけど——

それっ
リトル・
ヘヴンまで
三 四時間て
とこかね
だんな
わかった
いそいで
くれ
まったく
こんな
嵐の日に
それっ

三――
四時間か
リトル・ヘヴンで
つかまえなければ
また男爵たちと
合流しそこなう
メリーベルも
待ってる
だろうに

七まがりのがけから馬車がおちたぞ
だく流にのまれた
ご領地の方へ流されてゆくぞ
なんのさわぎだ
はい伯爵さま馬車が川に
馬車？
手つだってくれここに人がいるぞーっ
うまいこと岩間にひっかかってる
ひきあげろ！

ガタン!
もう これ以上 待てん! いくぞ
父さま! 待って! 待って!
エドガーは きっとくるわ なにかで 遅れてるのよ きっとくるわ
おお ちょうど 雨があがりました よいお立ちで お客さま
それより 集会に 遅れでも したら たいへん
心配しなくても 大丈夫よ メリーベル エドガーのこと ですもの

〈P・S〉

バンパネラを殺す方法に、心臓に銀の弾丸を撃ちこむか、くいをつきさすか、てのがある。多分、心臓てのは急所なのだ。
何百年も生きてきたバンパネラは、たちまちひなびて、かさかさにくだけ、ちりと化して散じてしまう
肉体だけでなく、衣服も、古いもので、ちりになってしまうらしい。
しかし、もしバンパネラが、銀は苦手らしいので金のゆびわをしてたり、銅のバックルをつけてたりしたら、貴金属ってのは、残るんじゃないか？

もし万が一、バンパネラが、新しいパンツでもはいてたら、パンツだけでも残るだろうか。そうしたら、これはバンパネラのはいていたパンツだとか、消えた後に残ってた服のボタンだとかいって、大英博物館にかざられるかもしれない。あまり、ロマンチックではない。
わたしが考えたのは、バンパネラが心臓にくいでもうたれ、現世へ存在するバランスを失った瞬間、異次元のアナの中にでもぽっかり落ちこんでしまうのではないか、ということだ。これなら少なくともパンツは残らないだろう。

伯爵さま
伯爵さま
どうした馬車は？
エヴァンズのお館さま
ばらばらにくだけてもっと下へ流されていきんした
これはお館のお客ですか
いや知らんな…死んでるのか？
へえ水からあげた時はもう
マントのひもが首にからまって
まだ子どもだ
きれいな顔をしてるのに
アーメン
…アーメン
…アーメン
アーメン

嵐がおさまったら葬式をだそう

わたしの領地内の遺体だからな

あれはどこのご子息でしょうねえ

着ているものなどなかなかよろしいものでしたよ

ほかに馬車にはだれものっていなかったのかな

両親とか兄弟とか

あれではだれ一人助かるまい

おいでになるそうそうたいへんでしたことドクトル

今夜はごゆっくりおやすみなさいませ

あれではだれ一人助かるまい…

ピタン
ピタン
ピタン
ピク！
ピタン
ピタン
ピタン
ピタン
ピタン
ピタン
ピタン
ガタガタガタ
ガタガタ……

ガタガタ
ガタガタ
コトン
ガタバタン
ガタガタガタガタ
コトン
青い目…青い目…
血…
ヴィオリータ…
ドクトルーっ
だれか……

おそらく頭をうって仮死状態になっていたのが
いかなる奇跡か目をさましたのですな
不思議なもんだまだ生きている
助かるかね……？
わたしの館から…もう死人は出したくない
呼吸数も脈も重病人なみに半分以下だ体温もずっと低い
ずっと眠りっぱなしで目をさまさないんだ
なにも食べず水も飲まずですわドクトル
もう十日以上も
まるで冬眠状態だね
伯爵さまもやっかいものをしょいこんだこと
まあケガ人がどこのご子息か知れないのにそんなことを

やがては死ぬだろうね
あのままずっと目をさまさなかったら……？
青い目だった
やまいでまっかな血をはいてわたしを残していってしまったヴィオリータ……
妻に似た青い青い目だった
ああ目ざめてはくれまいか早く――

やあ兄さん…!!
ロジャー
初椿の咲くころなのでまたきたよ!
わたしの弟だ
こちらはドクトル・ドド
よろしくロジャー・エヴァンズ
もうそろそろこおった池につられてスケート客がこの館にやってくる時期だ
きみはわたしの館は初めてだったねスケートはできるかい
おおわたしはフランスで毎冬すべってたよ
初椿が咲きましたわ伯爵さま
おお美しい
初椿は眠り姫の部屋に香りが目ざめを誘うかも知れん
眠り姫?

キャアーーアアアア
だれの悲鳴だ?
…子どもの…!
どこから——
…椿の香りが目ざめを誘ったか
心配はいらない
心配はいらないのだよ
……よかった!

名はなんというね？名は？あん？
名は？
名は？
名は？
名は？
…エドガー
エドガー……
…あの子
…どこ…？
あの子とは？
ここはわたしの館だ わたしはヘンリー・エヴァンズ伯爵
ヘンリー
きみの馬車は川におちてきみだけが
ヘンリー…！

とんだお荷物をしょいこんだもんだな
え兄さん…！
赤ンボみたいになっちまったガキとはね！
赤ンボではない
ゆっくり養生すれば少しずつでも思い出して
もとにもどるかもしれん…そうだろドクトル
わからん
エドガーだけじゃ話にならんよ
エドガーという名がおもしろい
？なんだねそりゃ
ぎょうぎょうしく…
カタン
オズワルド・オー・エヴァンズの遺書だよ
…われわれの祖父にあたる人だ

こののちの世代に

エドガーおよびメリーベルと名のるものがエヴァンズ家の子孫のまえに現れた場合は

は？

彼らの身分・国籍・年齢いっさいにかかわらずエヴァンズ家の資産すべてを付与すべし

エヴァンズ家のものどもは末代にいたるまでその名のものどもにとりかえせぬほどの大いなる負債をおっているものである

冗談じゃない
オズワルドじいさんは気がくるってたんだ!
ロジャー!
ガタッ!
かせ!
大事にとってるあんたもあんただ
やぶいてすてててやる
ロジャーきみおちつけ!
効力はないのだよ
一七八〇年オズワルド・オー・エヴァンズ
ドサー!
……あたりまえだ!

バカバカしい！エドガーにメリーベルが現れたときへっ！
一七八〇年!?…四十年も昔の遺書じゃないか！

おもしろい遺書とおもしろい偶然の一致だな
なにが！エドガーなどという名はざらにある！

ではあとメリーベルが現れればよい

たぶん…祖父はこの名の二人の者にカネではかえられぬほどの恩をうけたのだろう

それできみは遺書のとおり資産いっさいをゆずるかね？うえの部屋で眠ってるエドガーに
アカの他人にゆずる資産があればこっちがもらいたいね！

きみはカネに窮しておるのかねロジャーくん

資産いっさいとまではいかなくても…

祖父の心にそい少しの誠意なり見せてもよいだろう
記憶がもどるまででも
あるいはずっと……
わたしには息子もいないから
一人ぐらいいてもいいだろう
青い青い目
わたしの妻は
身ごもって……臥した
生まれてれば子どもはやはり
青い目だったことだろう……
伯爵さま…
へん…ごりっぱな道楽だ!
きみはロンドンに住んでるのかねロジャー
パリへも行ったことはありますよ!
なかなかはなやかな都だわたし好みで
ロンドンは陰気だがそれでもはでに遊べるとこもある

はで好みのきみの弟はなぜこんないなかにくるのだね
ああ 彼は事業に投資していてね

毎年この時期になると資金がたりなくなるらしい
ほう! なんの事業かね

さあね それが口実でもあいにきてくれるのはうれしい
そら! 枝をおってはいけないよ 指にキズがつく エドガー

まあ ほんとの親子みたいにむつまじいこと
伯爵さまはあの子に夢中だよ
毎日いろんなものを見せては
思い出させようとなさってますわ

われわれはおいてけぼりだな エレン

白い椿
赤い椿
木ぎ
小鳥
梢

雪

たづなを
ひいて！
ひいてっ！
ようし
すじがいい
こういった
からだで
覚えてる
ことはすぐ
思い出す
エドガー！
つまりね
なぜだか
この子は
脈が
一分間に
四十五ほど
しか
ないんだ
それで
はげしい
運動を
させれば
どう
なるか
……
わかった
わかった
へん…
やっかいな
子だ！
ロジャーさま
お手紙ですわ
やれやれ
こんな
いなかまで
借金が
追ってくる！

おじさーん
キャーおじさまーっ

ロジャーさま！グリーナウェイのリンダさまやアーネストさまがお見えになりましたわ
ほ！
兄さんの妻のほうの親族だ
おいっ子めいっ子
ほほう

まーっロジャーおじさま！1年ぶりね
はは ようこそレディージェントルマン
まだ結婚はなさらないの？ハンサムさん！

あら待って！今回はお友だちもいっしょなの
メリーベル！

メリーベル!? ほー
メリーベル・ポーツネル男爵令嬢
ロンドンのわたしたちの家のとなりについ一か月ほどまえ越して見えたのよ
わたしたちとてもなかよしなの! ねえメリーベル ねえアーネスト!

メリーベルのお父さまとお母さまはご旅行中なんですって
だからスケートにお誘いしたの
ねえもう池は氷がはった？
離宮までびっしりと
あらヘンリーおじさまは？
ヘンリーおじさんは…そらエレンが見つけてきた
！
ドクトル・ドド！
エドガーがまたたおれた手あてを…
あのバカが…!!
んま？
エドガー？
あれ男の子をつれてるよ……あれはだれ？

おお みんな
そのイスを
あけてくれ
病人だ…

〈P・S〉

読者からの手紙に、バンパネラのエドガーに脈があったのは、なんででしょうというのがあった。

バンパネラには、元来、脈がない。並みの体温もないはずだし、息をすうことも必要ないわけだ。汗がでることも、トイレにいくことも、肉やパンを食う必要もない。…ということになっている。影も本来ないはずだが、それじゃすぐ、ア、人間じゃないってことがバレてしまう。ポーツネル男爵が、ふだんエドガーに、人間らしくしろといっていたことが、功をなしたのかもしれないし、エドガーは記憶を失って、精神年齢がおおはばに逆行してしまっていたので、自分は人間だと思ってたのかもしれない。また、事故のショックで、人間にもどりたいと思っていた意識のほうに逆に支配され、バンパネラとしての記憶のほうを失ってしまったせいかもしれない。

まあほんと！そんなわけがあったの？
この子はほんとになーんにも覚えていないの？
なんてロマンチックなんでしょう！

わたしの息子だと思ってあまりムリをさせず仲間にいれてやってくれ
うんいいよ

仲よくなれるよヘンリーおじさん
同じ年ごろだしね

よろしくエドガーぼくはアーネスト
わたしリンダようふん青い目さん

メリーベルにエドガーか！役者がそろったぞどうするね
バカな…ただの偶然さ

あんなきれいな子がこんないなかにいるとは思わなかったわフフまよってしまう
メリーベル
どうしたのおうちが恋しいの?
まあわけを話してよさっきもあなた泣きだして…
かわいそう!そんなに好きなの?きっとひと目ぼれねそして初恋ね泣かないでよ
あの男の子のせい?まあ…!
じゃわたしアーネストかロジャーおじさんでがまんするわあなたの恋には協力をおしまなくてよメリーベル

ようこそ
ポーツネル
男爵さま…!
いえ ご子息は
お見えになりません
でした とうとう
へえ
一か月ほど
まえですかね
馬車が
がけから
おちて…
エヴァンズ伯爵が
助けてずっと
めんどうをみて
おられるとかで
エヴァンズ?
エドガーの
もともとの
家系ではないか
やつめ
なつかしがって
いついてるん
だろう
ケガを
してるのかも
しれないわ
心配だわ…
かまってられん
われわれは先を
いそいでるのに
わたし
そばにいるわ
いいでしょ
次に
お父さまたちが
ここをとおるまで
どうやって
近づく?
話では
ロンドンに
住んでる
親族が毎冬
スケートに
くるとか
そちらから
近づいて
スケートの招待を
うければ
よいわ
せっかく
きたのに
なにもかも
忘れて
しまってる
なんて
わたしの
ことも?
エドガー
みんな?
…
エドガー

まだ氷はうすいのねおじさま
もう一週間もすれば中央まではるよ
そうしたら中島にある離宮まで歩いてわたれるようになる
スケートをやったことある？メリーベル
いいえ初めて
おしえてあげるよすぐ覚えるよ
まるで幸福なご一家の絵ね
あれで伯爵夫人が生きていらしたらねえ
エドガー！

花の枝をおってはだめよまだこのくせがぬけないのね
よく知ってるね彼のくせを
え？あ…！
メリー…
あーららアーネスト人の恋路をじゃましちゃだーめよ
リンダ
バカいえよ
まーわかんない人ねメリーベルをごらんなさいな
エドガーばかり見つめてるじゃない
へーっメリーベル嬢がエドガーに？
きゃっロジャーおじさまハンサムさんうふん
…メリーベル…

いつも白い椿だけを切ってるのねエレン
ええ伯爵さまがお好きだから
エレン…ヘンリーさまが好き？
まあ…もったいないわたしはただの…ただの
それに…わたしは青い目じゃありませんもの
伯爵夫人はそれはきれいな青い目をしてらしたかただとか
ご病気でもうおなくなりになったのですが伯爵さまはまだずっと愛していらして
エドガーのような？
ええそれはきれいな
だからわたしにできることといったら
こうして花をつむことだけ

ねえ　いいものを　あげましょう　エレン
まあ　なんでしょう　メリーベルさま
これはね　ただのバラの　香料よ
お茶に　いれて飲むと　それは　よい香りが　するの
バラ？
でもね　もう一つ　秘密のききめが　あるのよ　それは　―恋のめばえる　クスリ！
それはただの　おとぎ話でしょう
おとぎ話でも　いいわ　わたしエドガーが　…お願いよ
昔から　バラは愛の花だと　いうわ　きっと思いは　つうじてよ
かわった香りだ　どこの　ブランデーだ
バラの香料を　いれましたの
パリの王室では　このようにして　お茶を飲むとか
そんな　話が　あった　かね

まいい香りだ…！

早く健康になってそうすればきっと気持ちもはっきりとしてくるわ

わたしのことも思い出すわ

早く早く…エドガー

なんて目でエドガーを見るんだメリーベル

いやねアーネストあなたシットにくるったこわい目してるわよ

あなたにはわたしがいるじゃないうふん

――メリーベル
くずれた へいのあいだから 白いマリを 追いかけて 現れた 少女
それが ぼくらの 出あいだった ことを
忘れては いないだろう？
すぐリンダが きみと おしゃべりを 始めた けど
あの日からずっと ぼくの目にはきみだけ
なのに いまさら
あんな ウマの骨に きみを とられて たまるか

やあエドガー
いいことを
教えてあげるよ
似てる？
まさか！
メリーベルは
きみを
好きなんだってさ！
半病人で
記憶のない
きみの
青い目に
いかれたんだってさ…
おい
わかるのかい？
…おい
……
…ふん！
ほんとうの
バカじゃないか
しゃべれも
しないし
こちらが
なにを
言ってるかも
わからないんだ！

子どもたちは
仲よく
やってるかね?
ええ
伯爵さま
よいねえ
エドガーも
ずっと顔色が
よくなった
…メリーベル・
ポーツネル嬢が
エドガーに
恋してると
おしゃべり
リンダが
言ってたが
…ま
伯爵さま
…さあ?
メリーベルと
エドガーが
なあ
エレン…
わたしが
エドガーを
正式に養子に
して…
メリーベル嬢が
花嫁として
エヴァンズ家に
さんじるという
図は
夢のまた
夢だろうかね
まあ
伯爵さま

わたしは反対だね！あまいよ兄さんは!!
ロジャー!!
……ただ……
いやいや！夢ではおわらんかもしれん
オズワルド・エヴァンズは予知夢を見たんだ!!
それできっとあんな遺書を残したのだよ！
バカバカしい！予知夢だと？予言だと？
あんな小僧一人現れたために！
たかだかあんな小僧一人

アーネスト！
アーネスト！
とまらないわ
ぶつかる
ぶつか…
キャーッ
そら
もう
覚えた
じゃないか
かんたんだろ？
ハァ
ハァハァ
ああ
ひどいわ
氷って
つるつるで
メリーベル
好きだよ…

きらいじゃ
ないわ

きらいじゃ

あ…でも

でも

メリー
ベル!!

メリーベル
愛してるんだ!
だめなの!
だめなの!
だって
わたしは
わたしは
どこまでいっても
たった十三歳の
少女でしか
ないの
それ以上は
大きく
なれないの
あなたが
いくらわたしを
好きでも
愛せない
ごめんなさい
ごめんなさい
だから
エドガー
だけなの
わたしは
いつまでも
エドガーの
妹でしか
ないの
エドガー
だけしか
わたしの世界に
いないのよ
恋なんて
できない

エドガー!!
ズザザー!
あ……っ!
ザザッ
エドガー

エドガー…
エドガー……!
エドガー……
わたしよ……!
…わたしよ……
……!?

エドガー
エドガー
わたしよ
エドガー
わたしよ
エドガーさま?
おやすみまえに
顔と手を
おふきしますわ
どうぞ
今日は
どちらまで
お歩きに
なられました?
ずいぶん
丈夫に
なられて
伯爵さまも
およろこびですわ

!?
どうなさいまして？
どう…
…お祈りなさいませ苦しいことがおありなら
心の中でいうだけでもよいのですよ
あなたの病気がはやくなおるように
これを……
神さまが見ててくださいますよいつも
さあ おやすみなさいませ聖書を読んでさしあげましょう

エレンはよい娘だよ…ほんとにあれにはは感謝している
ああ美人だし

エドガーがどこのだれなのか
まったくわからない
彼も……ものこそ言わないが思い出せないジレンマに
悩んでるのではないかねかわいそうに
……なにか？ドクトル・ドド
いや

……！ヘンリーはあの子に夢中だ客観的に判断できまい
わたしならできるよなんだね

それじゃあ言うが……わたしはひょっとしてあの二人は知りあいじゃないかと思うんだよ…ロジャー
どの

エドガーとメリーベル嬢

あんたもエヴァンズの遺書に毒されたくちか！

つまり…… 考えて みれば……
考えてみれば？

エドガーも メリーベル嬢も われわれに とっては 新参者だ
まったくの

わかってる ことは 一つだよ あの死にぞこないの ガキは
エヴァンズ家の 財産を ねらってるんだ
あの二人が 知りあいなら どうして メリーベルは そう言わないんだ

!?
ロジャー いちじるしく 主観が はいって るな
はやいとこ くたばれ いっそ ぶち殺して

まったく ぶち殺したい！
やつ一人の おかげで 計画が めちゃくちゃだ
いつもなら ヘンリー兄さんは 事業はどうだとか カネは足りてるかとか 聞くころなのに 話すことときたら エドガー エドガー エドガー

やれ死んだ
妻に目の色が
似てるだの
ふびんだの
かわゆいの
まったく
くそおもしろくない
毎年なんで
オレだけがこんな
苦労をする
次男で財産と
爵位が継げなかった
からだ
…兄貴がいなけりゃ
みんなオレの
ものだったのだ
そうだ
がけからでも
落ちてエドガーといっしょに
死んでくれんかな
ぐあいよく……！
………
タナボタを
待つぐらいなら
行動
せねば
オレにだって
人殺しぐらい
ちょろく
できるぞ
そうだとも
ああ！
ヘンリー・エヴァンズは
すこしばかり運が
悪かったんだ
アーメン
借金からは
おさらばだ！

ザザッ
ひどいわ
やったわね
待ちなさい
アーネスト
キャアー
きゃあっ
キャー
キャー
おはようございます
エドガーさま
おや
きれいな
十字架ですこと
ニコ
……十字架……！

ああら
青い目さん
おはようっ
まあ貧相な
十字架つけて
きれいよ 銀ね
似あってよ
きゃあ
お茶を
ちょうだい
のどが
かわいたわあ
……
あら どうしたの
ロジャー
おじさま
まっかな
おめめ
あ ゴホン
昨晩
考えごとしてて
眠れなくてね
まーっ
インテリジェンス!
どんな?
さ……
え……
殺人計画だなんて
いえるか
ああ
どう
しよう
銀の
十字架だ
なんて

ああ…だめ!
…銀…
わたしたちのからだが同化しきれないもの
十字架 あれに含まれている信仰が怖いの
わたし、父さまやエドガーのように、平気でそれにふれられるほど強くはないわ
――ああ どうしたら――

エドガーの銀の十字架よ

そうよ ほしいのよ わたしのたのみよ だめ？
……わたしを愛してるって言ったのはうそ？

メリーベル

メリーベル きみのためなら
きみがそれをほしいと言うのならぼくは気がくるったって女王陛下の髪飾りだってエデンのリンゴだって！
わたしは反対だね！身もとがはっきりせん！
反対!? きみの意見をきいてやしない！わたしがそうしたいと言ってるんだ
ヘンリー しかし正式に養子にすることもないだろう！万が——

なんだよ！ちょっと見せてくれって言ってるだけじゃないか
ア……ア！
アーネスト！
すぐかえすよ
ヘンリーおじさん……！
彼と仲よくなれると言ったのはきみではなかったかね？
ぼくはただ……
彼は病人なんだ　五つ　六つの小さな子どもとかわりはないんだ！
弱い者いじめは感心せんねおいでエドガー
ヘンリーおじさん……
バタン！

――あーあんなに
おこらなくたって
まえにしかられたことは
一度もなかったのに
気にすんな アーネスト
ヘンリーは ちと
きげんがわるいんだよ
そうそう
それとね
きみはもう
あの
青い目の子ほど
おじさんの
お気にいりじゃ
ないってこと
ロジャー
エドガーと
メリーベルを
結婚させようなどと
たわごとぬかすよ
よっく!
結婚……!
ロジャー
くちを
つぐめよ
なんでさ
そのことで
あんたは
相談うけて
たんだろ?
まったく
あの子が
なんだって
いうんだい
ただの
死にぞこない
じゃないか!
ヘンリーを
たぶらかして!
ぶち殺したいね!

毎度のことながらよい香りだね この香料は！
ふん 香料か
そうだ 毒をつかうって手もあるぞエドガーとヘンリーの皿に
うっかりオレが飲んだりして！
エドガーとメリーベルを結婚……
ヘンリーおじさんがその気だなんて
アーネスト
エドガーの十字架をとってくれないかしら
さあ 午後はスケートに行きましょうよ！
春みたいにいいお天気よ！ 外に出なきゃ！

Oh! apple pie!
ちょいと話があるんだがねヘンリー
話?
アーネスト! エドガーといっしょに行ってくれんかね?
ぼくは一人で……
かるく池を一週でいいんだ
むしゃくしゃするからつっ走ろうと思ってたのに死にぞこない……
!
……十字架…… そうだった
なんと絶好の機会!

なんだね 話とは
せんだっての一件さ

そりゃいいよ きみがエドガーを ひきとるのは きみの問題さ…でもね
一友人として一言… 彼の身元が わかってからにしろ っていってるのさ

身元? 彼が記憶を なくしてるのは きみも 知ってるじゃ ないか!
ヘンリー

わたしは うらない師でも 予言者でもない ドクトルだが 伝説や 悪魔や 神の存在に ついては 信じてる ものだよ
わたしは

オズワルド・オー・エヴァンズの 遺書が 気になって しようが ないんだ…!

よいかね メリーベル嬢は なぜか会いしながら 彼が小枝を おりながら 歩くくせを 知ってたよ その時は 気にも とめなかったが
エドガーに
わたしよ と…

エドガー わたしよ と くりかえしていたよ だれも見てないとこで

わたしのカンじゃ
あの二人は
知りあいだ
…よいカンだね
ドクトル
だが
知りあいなら
メリーベル嬢はなぜ
そう言わないんだ?
ようすを
見とるのかも
しれんよ
エドガーの
記憶がもどるのを
待ってるのかもな
われわれは
連中の過去を
いっさい
知らんのだよ
彼らは
きみょうな客人だ
少なくとも
メリーベルは
計画的に
ここにやって
きたんだ!

病人にしちゃ
なんと軽く手なれた乗馬だ
くそ感心してるばあいか
すぐ一周してしまうぞ
池は四マイルもない
十字架を……!
おーい
くもってきた!
そろそろ帰ろうぜ!
お嬢さんがた!
リンダ!
リンダ!
帰るよ!

離宮をまわって
すぐくるわ！
さきに
行っててえ！
む！まったく
おてんばな
お嬢さんだ
ふ！
こりゃ
ひとあれ
きそうだぞ
寒く
ないかね
いいえ
アラ！
…からみ
つくよ
からみつくよ
愛してる
金色に
におうよ
金色に
ジンチョウゲ
ジンチョウゲ
金色ににおう
からみつくよ
からみつく
愛してる
なつかしい
古い歌だ！
自分で覚えてるとは
思わなかったよ
死んだおやじが
よく
歌ってた
オズワルドが？
オズワルド？
おやじは
クリフォード
ってんだよ
オズワルドは
祖父の名さ
会ったことも
ない
あ！ああ…

ああそうね
いま一八二〇年…
何十年も
たってるのよね
歌って遊んだ時
から
ロジャー
あなたは少し
オズワルドに
似てるわ 声も!
…とても
やさし
かったの
?
?
?
?
ヒヒヒー
あ……ッ
今だ!
チャンス!

死にぞこ
ないめ！
さあよこせ！
ア…ッ

プチッ

ギクッ！

そら
手に入れたぞ
ざまあみろ！
なんだてめえは
ぶざまにも
ねっころがっ……

…あ…！
エドガー……
死んで…？
死んでしま
った…!?

見てる
水魔
生きてるのか?
水の中で?
水の……!

あ!?
あ!?
キャー

アー…ア
きゃあっ!
リンダ!
アーネスト
ああ…
あれは
あれは
アーネスト!
首から
血が!

おじさん!!
エドガー
わたしよ
わたしよ
これはなんだ!たいした作法だ!
ああおじさまあああ
アーネスト?ずぶぬれになって!
ぼくよりリンダを!
リンダ?アーネスト?
メリーベル!
あなたの恋するエドガーは人間じゃないわよ!こわかったわ!ああこわかったわ!首に…首に!

首だと？
どうした？
か…かみついてきたんですよ
彼が
十字架をはずしたとたんに
またケンカをしたのか？
あれは怪物よ！
目が光ってた
ほんとうよ！
なんとかして！
首にかみついてきた——？
メリーベル!?
では記憶が…もどったんだわ
もう待つこともないわ
わたしつれていけるわ！

メリーベル！どこへ！
もどった？つれていく……？
メリーベル！

これはなんのしばいだ？エドガーはどこだ!?
彼は人間じゃないよ！

……ではメリーベルも……

ドクトル！

――昔から首にくらいつくのはバンパネラだとそうばがきまっとるもし……
気がくるっているのはきみだ！バラでも散らしたか!?エドガーが

残念だよ！椿の木ばかりでだがもしバラがあったら……
…バラの香料をいつから使い出した？

あれはメリーベルさまが……

エドガーは
どこだ
エドガーを
見つけ出して
そうすれば
すぐわかる
ヘンリー!
ヘンリー
兄さん
わたしも行く!
こいつはいい
オレは悪魔など
信じないが
伝説に乗じて
エドガーを
追い出すのも
手だぞ!
追っかけるよ
…不安だ!
戸をしめて
おけ!
ドクトル!
アーネストさま
着がえを
トン
ヘンリー
おじさん!?
ロジャー
おじさま!?
伯爵さま?

……
入れないで
エレン！
メリーベル
さまは　おりま
せん
…あの子
どこ…？
外ですわ
エドガーさま
外ですわ

エドガー!
エドガーー!
あの子はからだが弱いのに!
こう広くちゃむりだ兄さん
エドガーー!
今だ! どさくさにまぎれて一発
過失とでもなんとでも
今! い……アーメン

ゴウゴウ
兄さ……
エドガー!
エドガー! わたしだ!
なにをする ロジャー
あんた… あんた… 兄さん ありゃ ありゃ
エドガー じゃない それだけは 保証する とんでも ないものを 川から ひろったな
ありゃ 悪魔……
やめろ ロジャー
ぶち殺さんと こっちが 殺される 離せ 兄さん
エドガーだ!

にいさん

ギクー！
…グルめ　グルめ
最初からグルだったんだな
メリーベルとエドガー
くそ！
賛美歌一つ出てこん
けちな大望を持ったオレの一生もここまでか！
アーメン
あの子…？
どこ？
エドガー！

…メリーベル？
そうよ！
メリーベル！
そうよ！

わたしのエドガーはどこへ行ってしまった
あの青い目はどこへ行ってしまった
――ヴィオリータ?
ずっと見つめ続けている
…?だれかがわたしを見つめている
エレン?
…雷にうたれたんですわ
伯爵さま

あなた
メリーベルが
好きだったんでしょ
アーネスト
うふん

でも
うすやみや
月光に
恋しても
なにも
できないから
リンダ

――ロンドン
はい たしかに オズワルド・オー・エヴァンズ伯が 以前のこの家の 持ち主でした
まあ わたしも そのかたのことは よくぞんじませんが たいそうな美男子で 愛妻家で 道楽者だったとか
その階段の おどり場にそって 肖像がかかって おりまするよ ずっと ご先祖の
おきれいな かたでしょう
なにを おのぞみで?
エドガーと メリーベルに ついてだがね
……メリーベル…… 養女としてまいった アート男爵令嬢が メリーベルと いう名ですな ……十三歳
ほ まあ 養女とはいえ 昔の ことですから
第二夫人 第三夫人として 恋人がわりにでも 引きとられたのでは ないですかな
もっとも この令嬢 すぐ なくなって ますが

「エヴァンズの遺書」1974年11月

ピカデリー
7時
しちじ

〈オレンジとレモン〉 イギリス民謡より

キャーッ
セント・クレメントの鐘がなるよ
キャーッ
セント・マーチンの鐘がなるよ
5ファージングス貸しとくれと♪
メーン
お客さんそろそろピカデリーサーカスですがね
リージェント通りへやってくれ
おい こりゃなんのさわぎだ!?
ブッブッ
殺人事件だとさ!
殺人事件!?

この先のアパートでチンピラが殺されてて
主人のポリスター卿がゆくえ不明だとさ!
♬それ いつ返してくれんのさ
とオールド・ベイリーの鐘がなるよ
エドガー!
お客さんこりゃいけねえよ
ここでいいありがとう
聞いた?
だってね
さあさがって!さがって!さあ行った行った!
馬車を止めるんじゃない
ガヤガヤ
行って!行って!
ワァワァ
あのチンピラ知ってるぜ!
クックてえピカデリーの飲んだくれだ!
ナイフでひと突きだとよ
ワァ
ワァ
娘さんはどうしてる?そら美人の
♬お金持ちになったらと
ショアダッチの鐘がなるよ

どうする　エドガー
どうする？
ぼくら
ポリスター卿をたずねてきたんだろ？
カーン
…まるでおとむらいの鐘だな……
いつお金持ちになれんのさ
♪
ステペニィの鐘がなるよ
なに考えてんのさ！
ねえ
エドガー
どうする？
♪——さあしんねいよ　と
ボウのおっきな鐘がなるよ……
やあ
ラッド！
ポール！
聞いたか？
リージェント通りの殺人事件！
ホテル
オリエント
リリアが心配だ
昨日
ピカデリーで彼女と会ったんだろ？
いや
昨日
彼女は来なかった

さあ
おちついて
お嬢さん
クックは
台所の下の
非常階段から
コソドロに
はいったとこを
ポリスター卿に
みつかり
やられたん
でしょうな
お…お…
おじさま…に
ホウ
地理と歴史学者
でありますか彼は
正当防衛
ですがな
クックも
でかい
ナイフを持って
ましたから
おえらい
かたで
学問のため
よく
旅行なさって
ましたよ
昨日も
トランクを
用意して
ね
でも
急に電報が
きたので旅行は
とりやめて……
これですな
「アスック
ポーツネル」
ポーツネル
とは？
さ…あ
昨日
おじさまが
出かけるというので
あたし　昨日
こっそり
恋人のポールに
会おうと
明けがた
三時ごろ
ピカデリー
近くで
大きな
トランクを
持った人影を
警官が
見てます
が…
でも電報がきて
旅行は延期
恋人には会えず
そして
今朝になったら
──人が
死んでて──
おじさま
黒いトランクを
持ってどこへ

警察の
総力をあげて
彼をきっと
みつけますよ
おじさま
おじさま
お父さまの
ような
おじさま
孤児のあたしを
ひきとって
育ててくれた
おじさま
おじさまに
ポールとの交際を
禁じられた
どこへ
いったい
どこへ
……
ポールが
ポールがそばに
いてくれたら
……！
手紙を
おかき
なさい
わたしがまた
とどけますから
トン
トン
トン
ポール……!?
初めまして
ポーツネルですが
──

ポーツネル？ この子たちが？
おじさまの…身内？
すてきな娘を育てていると
たいそうじまんしておられた
……あたし なにも聞いてなくて …せっかくいらしたのに
たいへんでしたね このたびは
……あなたのことは彼から聞いたことがあります
もう ずいぶんたつ 最後に会ってから
再会をたのしみにロンドンに来たんですが
ねえ 彼のことを話してください
おじさまは…… 最初に会った時から少しもかわらないわ
今もくちひげをはやしてますか？
すぐかた目をつむりますか？
ええ ハンサムで……
やさしくて……
いつも いつも……
おいで わたしのリリア

大好きなお父さま
いつもいつも
明るい金髪明るい目の色アブサント酒がおこのみ
いつもあたしが作ってさしあげる
おいでわたしのリリア
……いい人でしたねわりとお人よしで…ポーにしちゃ……
よしてくださいよ!
まるで死んだ人のこと話してるみたいじゃございませんか!
フリーダ
ポリスター卿の部屋を見せてくれませんか?
な…なぜ?
なにか手がかりが残ってるかもしれない
手がかりがあれば警察にたのんでさがしてもらえるでしょう
キ

ラトランド地方を中心に切りとられているわ…！
…トランクをもって…夜中に…？
ここに行ったのかしら？
──行く予定だったんでしょうね

――あなたのためにーー
あたしのため…に？
じゃポリスター卿はあなたになあんにも話してないわけ？
アラン！
また来ます急用があるので
待って
待って！どうして……おじさまのことを……
あたしの知らないおじさまのことを
なあんにも話してないわけ？
あの子たちなにか知ってる⁉
ポーツネル⁉電報の主！なぜすぐわたしを呼ばなかった
どんな男だった⁉
少年？十四ぐらいの？……二人？
また来るって……言ってましたわ
ふんむ〜〜〜ラトランドか……

PUB disci
PUB
エドガー
何軒パブを
まわるのさ
……
…人をさがしてんだよ
ポリスター卿のこと? もうロンドンにはいないよ――きっとラトランドへ行っちゃったにちがいないよ!
彼は
…かつて一度も約束をやぶったことはなかった
彼はポーの村をさがしていた
時の谷間はるかなバラのふるさと
その入り口が……みつかったと手紙がきた
出発の日までに来ればぼくらもつれていってくれると
貨物の事故がぼくらの到着をおそくした
彼は待っていたはずなんだ
電報を見てトランクをおき
出発を遅らせてくれたのだ
彼は――
……?

へい！今朝のニュースを聞いたかい？
あのクックのヤローまったくろくな死にかたしなかった！
どうやらここだ
エドガー？
…あんたマスター？
なんか用かねぼっちゃん
ツケを払いにきたよ代理で
ヤツはなあオレの店にごっそりツケを残していきやがったんだぜ！
クックのね……
……あののんべの…？ヤツにそんな友人がいたか？
いいからいくらでも払ってこいってさ
ラッドじゃないか!?そいつは
ん――だろ？そういや……昨日の夜すみのテーブルで閉店まで二人でのんでたなあたしか……
ふーん……よーし……じゃ五ポンドもらおうか

悪いねえ！ラッドは今夜はのみにくるのかい？
どのラッド？
オリエントホテルのラッドだろ！
え？
オリエント？なに考えてるのさ！エドガー！
おいで！今夜はオリエントホテルへとまるよ
エドガーってば！
来ればわかる
いらっしぇい！こりゃ警部さん！
一杯くれビール

おーーー
ラッド！
よ
キイ

今十四ぐらいの
ガキが
二人
おまえの
代理で
来てよーー
オレのォ!?

クックの
ツケ払って
くれたぜ
オ　オ
オリャオリャ
そんなおぼえ
ないぞ！

ガキが
二人？おい
まき毛と
金髪で
いい服着た
……？
ギク
へい？
まさか
警部さんで？
ツケ払って
まわってるの
五ポンド
でしたよ

クックの
ツケ…？
なんでだ…？
なにか
知っていそう
でしたわ
ポリスター卿の
身内…とかいう
ガキ……
なにを
知ってる
んだ？

おいまたその
ガキが来たら
知らせて
くれ
へーー？
事件に
関係でも？

わからん
オリャ
知らんぞ
！

ホテル オリエント
はい ひと晩 おとまり お荷物は
ないよ 駅に あずけてある
ねえ この ホテルに なんの用が あるの? なんで ツケなんて 払ったの?
黒い トランクを さがしてるのさ
♪チチ ニチチ♪
トランクは ポリスター卿が 持って旅行に ……!
行って ない
なーにさ 見てきた ふうなこと 言って! じゃどこに いんのさ ポリスター卿は!
シッ
リリアんとこの メイドだ なにしに 来たんだろ
ハンサムな ボーイだね 若い娘が のぼせそうな
……たと えば リリアが

ポール！
お客さまを
案内して！
あ
はい！
あ
失礼
ポール!?
どうも
こちらこそ
あっ！
手紙すりとったの？
悪趣味！
事態は
急を要する
――ごめんなさい
ポール――
昨日　会う
約束を
やぶってしまって
急に　おじさまの
旅行がのびて
家から
出ることが
できな
かったの
明日
待ってます
あ
あーっ
？
？

朝の七時
ピカデリーで
フリーダと
市場に行く
予定ですから
こんにちは
ポール
あ…あの
その手紙……!
わきから
こんな手を
出して
ポリスター卿が
知ったら
だまっちゃ
いないよ!
き…きみたちは
彼の
身内だよ
今さっき
リリアに
会って
きたとこ
ほんとかい?
リリアは
どうしてた?
なんか…こんな
事件に
まきこまれて……
あの子
……
どうしてた?
リリアが
好きなの?
好き…だよ
そりゃムリだよ
リリアには
ポリスター卿が
いるもの!

そりゃぼくはこんなしがないボーイだしさ……
♪オレンジとレモン
…だから彼女との交際を大反対されるのもわかるけど
そんな意味じゃなく!
アラン
セント・クレメントの鐘がなるよ
カ
5ファーシングス貸しとくれ と
セント・マーチンの鐘がなるよ
……でもそのうちきっとわかってもらうから
いつ返してくれんのと
オールド・ベイリーの鐘がなるよ
ぼくは彼女を愛してるんだ
一年まえに会った
それから雪のトラファルガー新緑のケンジントンどこにいてもぼくたちは幸福
それからセント・ポールの礼拝堂バッキンガムの散歩道
いつもぼくたちは幸福
カ
カ
オレンジとレモンローストとマシュマロ幸福と不幸運命と偶然
天使と悪魔
鐘がなるよ鐘がなるよロンドンの

おとむらいの鐘に聞こえる……
え？
手紙をわたしてきました彼たいそう心配してましたよ
明日七時ね
フリーダありがとう
ポールおじさまが早くみつかるようにあなたも祈って……
あたしの育ての親かけがえのない人
明日会うの…？今夜行けばいいのに
だめなんだ行きたいけど二時まで夜勤で
昨日ラッドにかわってもらったばかりだから
……ラッドって同じボーイ仲間でね
ラッド！かわってもらった！
昨夜すみのテーブルでクックと二人のんでたなあ
あなたならリリアを幸福にできそうだね……
エドガー！

なーに！なんてこと言ったのさ！
ポールがリリアといっしょになれるもんか！
ポリスター卿はリリアに話してなかったらしいけど……
どこ行くの!?
先ほどのパブさ
ラッドに会いに
ラッド？なんの用が
ポリスター卿は旅行に出るはずだった
だからリリアはそのすきに恋人に会うはずだった
だから恋人のポールは
夜勤をラッドとかわってもらった
デイトなんだ
ラッドは聞いて主のいない家にクックとしのび入り
まんまとカネめのものを盗み出すはずだった
が……！
主はあいにくといたんだ
主はぼくらを待っていた
なのに黒いトランクがなくなった
…トランクは必要だ……
地図がはいってるかもしれない

トランクを持ってったのが……そのポールの友人の
ラッドだというの？じゃポリスター卿は？
彼は？
まだわからないの？
パブ ピウィーク
そろそろしめるぜ！ラッド！
あいよ…
あ……
現れたら知らせてくれ
あんたラッド？
ん？なんだおまえら…
これをあずかってきたよ
ん？

トランクを買いたい100ポンド払おう ポリスター
がん
百!!
だっ…だれがこっ…これを
背の高いハンサムなおじさん 返事をもらってこいってさ
まっ待ってな いい子だな だちんをやるから
朝7時ピカデリー
パサ!
エドガー 手紙…!
シー!
帰るぜ! またな!
ああ ああ おやすみ ラッド

警察に知らせてるみたいだよエドガー
いいからおいであとはタイミング

それにしても七時とはね…偶然にもデートの時間

百ポンド……ポリスターのヤローよっぽどうしろめたいとこがあるんだな……

クックとしのびこんだはいいが
はからずも人の音
WHO?
手近の荷物をひっつかんでクックをほうっていちもくさん

あとで主が家にいたと聞いてタラー

ポールめいねえと言いやがって

殺されたクックには気のドクだが
オレにも運がむいてきた

クックはナイフを
持っていた
大きな
ナイフ
殺された
ポリスター
心の臓に
つきささった
ナイフ
爆発を
おこしたように
一瞬にして
消え去った
——からだ
花嫁を
育てて
いたのだ
彼は
明るい目
明るい髪
おじさまは
アブサントが
お好き
彼女が
二十歳になり
一族に
加えられる日を
待っていた
儀式のために
村を
さがし
大老ポーを
さがし
だが彼は
もういない
もういない

ホントですの?
おじさまが
……ここに
現れるって?
もちろん!
わしの
にらんでた
とおり
二人の少年は
卿のゆくえ不明と
関係が
あったのです!

へい
ぼっちゃん
馬車を
いりようで?

少しはなれて
立ってましょう
ポリスター卿が
現れたら
合図して
ください

あっ
む?

リリア
ポール
ひさしぶりだね？
やせたよ
ねむれないいん
だろう？
ポール
ポール
ウオッ
ホーン!!
オホン！
だれだい
彼は
あ…あの人は
おじさまの

おじさまのトランク!!
ラッド?!
げっ
ヤバイ…ポリスターの娘!!
気づかれた逃がすな!
わっ
くそーっきったねー――っ
へい!こっちラッド!
わわ
トランクを!
ひや百ひゃ!

あばよ！
ボカ
馬車を
あの馬車を
追えっ
わーっ
さわるな
さわるなーーっ
オレの
百ポンドだーっ
ゴ
ガッ
百ポンド？
百ポンド
だってよ！
馬車
どかせ
馬車を
あーあ
なんの
さわぎや
あいつ
アホじゃ
ねえのか
おまえ
乱視か！
よく見ろ
ただの白い
紙だぞ
こりゃ
ゲッ
いいえ！
……手紙が
一通……
わが最愛の娘へ
しあわせに
しあわせは遠くより
わたしはふたりのしあわせを
いのる
A. ホリスター

遠くより しあわせを いのる
…おじさま…
さあ立てラッド！
署でとっくりわけを聞かせてもらおうか！
ひやくひやっくひやくひっく
おっおっおっ
なんのわけがあって…？行ってしまったの……
…いつかもどってくるのでしょう…？
いつもいつも……
おいでわたしのリリア
あの子たちはそのわけを少しでも知っていたのかしら……
…これはうそでしょう？
リリア……

「ピカデリー７時」昭和50年６月

ホームズの帽子(ぼうし)

1934年
ロンドン
わあ
そのバス
そのバス
ギョ!
タッ
まあ
なんでしょ
長い髪
ボソ
ボソ
女ではあるまいし
いい年をして!

シャーロックホームズの帽子だ
……ア
ああ
長い髪だねあなた人間？
いや魔法使いさ！
ほんとうだあなた
魔法使いの目をしてる
バイバイぼうや
フッへんな子だな
バイ
オービンさん！髪を切れって？ついに……！
ああ！
切ってくれバッサリとな！
イキにグレーのタータンなぞ着て
魔法使いの目ね
魔法使いも今日で廃業だ
ブーッ

髪を切りたまえジョン・オービン!
ジェルソン社長から新刊の企画を聞いておまえを使おうと思ったんだ
だってね髪の長い人間の方が霊感が働くっていうから
マック編集長
クレイバスがイゾルデ嬢に毎日白バラを贈ってるそうだぞ
オービン年はすぎるぞ　考えろ
たとえば部屋のくらがりに
不思議な気配を成したり
古い時間はもうすぎた
今は夢路の扉を閉じぬ
いか…がオービンさん
けっこうなかなかいい
五方星形の陣の中
血のさらならべて魔物を呼んだり

わたしは
男の人の仕事に
モンクを言う気は
ないわよ
ただ髪の長い夫は
いやだっていうのよ
みごとな
白いバラ
ですこと
お嬢さま
ええ
ケイシイ・
クレイバス
からよ
ところで
今夜は
お客さま
ですって?

よく決心がついたぜジョン・オービン
さァジェルソン社長宅へ直行だ!
一回転する車輪の下にひかれてくだけるわたしの魔物たち
許せわたしはイゾルデと結婚するぞ!
これはめずらしいジョン・オービン!
クレイバス!
きみも来てたのか
ネス湖へ怪物さがしに行ったと聞いてたが!
お嬢さま!! お客はマック編集長にクレイバスにジョン・オービンですよ!
しかも髪! 髪を切ってきてます!!
なんですってえ!?

イゾルデ イゾルデ 結婚してください
あなたが髪を切ったらね
でも
もちろん彼はおぼえていたんですよ!
六年もまえのことよ!
イゾルデ イゾルデ
それならしかたがない
あの時あの人はわたしより魔物の方を選んだのよ!
一九九回目の魔法陣をかいたと聞いたが悪魔は出たかね!
そんなヒマなこたもうせんよ わたしもいつまでも若くはないし
おおまたバッサリ切ったね オービン
はァ わたしもそろそろ身をかためようと思って
ム! イゾルデにちょっかいを出す気だな ヒッコメ エセ魔法屋
ウセロ エセ降霊術師
バチ
じつは今夜二人に来てもらったのはこんど出す「怪奇と幻想」誌のことなんだが
お嬢さま
バサッ!

ザザザザザ
キャー
なんだ!!
どろぼうか!?
どろぼう
ですって!?
どろぼう!!

グレイ・ダグラスのタータン・スーツ
あ!? きみ今朝の……!
知りあいかオービン!
なにをしているこんなとこで
いや あの
木登りしてたんだよ
登れるか友だちとかけたんだ昼間だとみつかっちゃうだろ
なんと……!!
あ……う……
髪切ったんだね魔法使い
で あなたこんなとこでなにしてるの
子どものいたずらでしょ おお イゾルデ お美しい わたしが贈った白バラの精のごとく
アハーン
知ったことじゃない
ごいっしょにあつい お茶いかが? ここは寒いわ

あなた オービンさんのお友だちなの？ 初めまして お名まえは？
エドガー
あなた 彼が髪を切ったわけを知ってて？
さァ
それより バラをわたすチャンスをなくしてこまってますよ 彼
いいのよ 六年わたしを待たせたんですもの 少しじらせてやるわ
な なんだ なんだ あのガキは
知りあいだと 今朝 一度会ったばかりだぞ
あなたはそれでかけに勝ったのかしら？
負けですよ 登るまえにみつかっちゃったんだから
オービン バラがムダになりそうだねえ
バ…バ バラをムダにはせんぞ
ガキは あとだ！ あとで家まで送って 家人にきつく注意してやる じゃましやがって！
ムムッ クソッ

ザワ…
サワ
お父さまたち
なにを今夜は
あつまって
お話なの？
新刊誌の
ことさ
タイトルは
「怪奇と幻想」！
売れる本に
するぞ！
そのための
企画会議だ
この
お二人に
協力して
もらう！
まァ　おもし
ろそうねェ
バトゥラー
いえ　おばけ
はきらいです
そんなこわいの
ばけものは
こわくなんか
ないですよ！
そりゃ
こわいから
おもしろいんじゃ
ないのかね！
ム！

人間には こわいもの見たさの心理がある こいつを強調して こわい ぶきみ そんな本をつくりゃいい!
へえ こわいってどれぐらいこわいの?
見たことあるの?
わたしをだれだと思ってるロンドン一の降霊術師!
ケイシイ・クレイバスですぞ!
ああ 魔物を呼び出すわけ
魔物は オービン
わたしのは真に科学的な霊の研究なのです!
「怪奇と幻想」って科学の本?
きみね――
霊の存在を知らんのかね
霊は万物にある 花 虫 鳥 犬 もちろん人間にも 生命あるものすべてにだよ
霊がからだからはなれると死んだ肉体のみが残るんだ

アハ…！まさか！
ぼくにはそんなものないよ

人間は霊をもってるんだよ！

ぼくは人間じゃないもの
こりゃいいい！

オービンさんあなたのお友だちはあなたのたいへんなファンのようね？
じつにふざけとる！
こりゃいいい！こりゃいいい！
イ イゾルデ

人をおちょくる本をつくるつもりですかね！
いや季刊としても四千部は出したいですなそうスリリングになあオービン
えくくえいいじゃないですか「ぼくは人間じゃない」なんてタイトル

世の中不景気ですからこういう時こそ人びとにごらくを与えるべきです
ハッタリをきかせてスリリングにミステリアスに
ほーほ
四千といわず五千部出しましょう！

お仕事ねっしんねオービンさん
これまではキルケニー猫だチェシャ猫だ
マンドレイクだ一つ目巨人だと
北へ南へ海山こえて走り回っていらしたのに
…そんなのはこんどから自分の書く本の中でやりますよ
ももうぼくも年ですからね！いつまでも若くないし…
ここらで腰をおちつけ職をもって
そーそー
ハハハハハ
なんで彼は
つい二か月ほどまえもわたしは霊を呼び出しましたが
子どもの霊なんです 母親は泣きだしましてね
キラ
イギリスこの歌と伝説の宝庫

それぞれの家の
柱のかげに
森の泉に
古い城に
どれほどの
小妖精が
魔物が
かくれてるか
人びとが
いかに
それらを愛し
伝説として
伝えているか
この寒い
国の人びとの
たれもがそれを
愛し
さがして
るのではないか
だからぼくも
その存在を
愛し
信じられる
そしてぼくが
なにかの
妖精に
出会っても
見せ物に
したり
大衆に
さらしたり
せずに
ぼくもまた
伝説にたくして
そっと後世へ
伝えたいと
思って
きたのだ
髪を
切ったの
魔法使い

オービン！彼はいったい何者だ！
え⁉彼⁉
さっきから人をこばかにした目で
ばかになんかしてないよ降霊術なんて
たいていが自己催眠だって言ったんだ
わしはほんとうの降霊術師だ!!
クレイバス
わしには霊力があるんだ
出してみちゃどうだ！クレイバス
そして…
へ!!
そうだ！そしてうまく霊が出たら創刊のトップを実体験としてかざれるぞ
企画会議に霊が出た！
そう六千部はかたい！
六千部
トップ
名声！

わ　わたしは失礼させていただきます
オバケには会いとうございません
まァバトゥラー
クレイバスさんわたしは平気よ
すこしこわいけどおもしろそう
名声！

おい　きみどこへ行くねエドガーくん？
いいとこできみにげてもらっちゃこまる

わたしは降霊術師だきみの家族の霊を出してみようじゃないか！

ではロウソクのあかりをいいですか静かに声を出さずに
霊はさまざまなことで訪れを告げますたとえばロウソクの炎をふきけしたり
コップをこわしたり本のページをくったりキヌズレの音をたてたり…です
でもおどろかないで
ではみな手をつないで
きみの
なくなった身内の名を言いたまえ

ムリだと思うけど
育ての親に老ハンナなどいたけど
二百年前に死んだけど
エドガーそんなご先祖じゃなくってもっとあなたに近い人

………
呼んでみせると言ってるんだわたしは

妹を呼んでみて

なくなったのは？
十三の時

名まえは

メリーベル

静かに手をはなさないように！
わたしの霊力で彼女を呼ぶ……
来たらきみが質問をするんだ……いいか……いいか

キャアア
ガタ
あかり!
あかりを

ハッ
クレイバス!
どこへ行ったんだ?
知らん…外へいつ出たのかね
いない
クレイバス!
ケイシイ・クレイバス!
まさか消えたんじゃ?
そんなばかな
きっとわたしたちをおどかそうとして逃げたのよ
人がわるい
とんだ降霊術師だ!

き…み
だんなさま
だんなさま
上の部屋に
人かげが…
書庫の
あたりで
クレイバスか!?
クレイバス!
こ こりゃ
どろぼうだ!
書棚が全部
あいてる!
通気窓が
あいてる
あそこから
入ったんだ
でも
あんな
せまいとこ
子どもで
なきゃ
ムリです
なにが盗られたんだ!!
ここは絶版の
古書ばかり
あったんだぞ
…

エドガーは!?
上じゃ? クレイバスさんはいらして?
いや! いや…!
じゃ まだ近くにいるはずだ
待って ジョン・オービン
あなたがこの花を持ってらしたわけを言って…
それどころか!! クレイバスは消えたんだ!! あの子は魔物だぞ!!
ジョン・オービン!!
ジョ……ン!!

魔法使いの
目をしてるね

「ホームズの帽子」
昭和50年 9 月

ポーの一族 第二巻——**終わり**——

●エッセイ

『ポーの一族』について

宮部みゆき

創作という仕事について語られるとき、しばしば「無から有を生み出す」という言い回しが使われます。美しい表現ですし、「物語」という、形も色も千変万化するものの由来を表すのにはいい言葉かもしれません。ただ、これはまったくの間違いでこそないものの、一〇〇パーセントの真実でもないと、わたしは思っています。

多くの作家は、自分の手で自分の物語を語り出すはるか以前に、絶対と言っていいほどの高い確率で、心を震わせ大きな感動を与えてくれる先達の手になる物語に遭遇し、そこを出発点としているものです。ちょっとアクロバティックな言い方をするならば、Aという作家の原点は、作家Aの処女作ではなく、作家Aをしてその処女作を書かせるエモーションを生み出させた先達の作品のなかにあるのです（念のために申し添えておきますが、これはもちろん、「盗用」とか「盗作」とか「模倣」というレベルの話ではまったくありません）。

これらの「後続の創作家を生み出すエネルギーに満ちた先達の作品」（ちょっと長い呼び

名ですが）は、文字通り千差万別です。その創作家が後年手がけることになる作品とは異なるジャンルに属するものであることも珍しくはありません。映像作家に強い影響を受けた人が映像的な作品を書く小説家になったり、音楽にエモーションを感じた人が画家になったりすることだってあるのです。これが人間の面白いところですね。

本書『ポーの一族』の生みの親である萩尾望都さんは、これまでの創作活動のなかで、そうした後続の創作家を刺激するエネルギーに満ちたあまたの作品を世に送り出してこられました。さらに萩尾さんの凄いところは、一度読んだら忘れられないたくさんの作品を生み出し、多くの後続の作家のエネルギー源として、尊敬と憧れを以て語られる創作家でありながら、疲れを知らず退屈もなく、ずっとずっとトップランナー、一等星の作家でありつづけておられるということです。これは凡百の書き手にできることではなく、わたしなどは正直に脱帽して、皆さん、天才とはこういう方のことを指すのですよと申し上げるしかありません。

トム・クルーズ主演で映画化され、日本でも話題になったアン・ライスの『インタビュー・ウイズ・ヴァンパイア』という作品について見聞きしたとき、「なぁんだ、アメリカじゃ今ごろそんなものが書かれてるのか。日本には『ポーの一族』があるもんね」という感想を抱かれた方は、大勢いたのではありませんか？　わたしなど人が悪いので、アン・ライスは『ポーの一族』を読んであの作品を書いたんじゃないかと横目で睨（にら）んでおりました。

ホントのところ、どうなんでしょうね。
永劫の時を放浪し続けるヴァンパイアという存在に真正面から光をあて、「死の存在しないところに本当の生はあるのか」というもの悲しい問いを発しながら織り上げられる『ポーの一族』の物語は、ヴァンパイア・ストーリーの本場であるはずの欧米の諸作品を遥かに飛び越して、もはや古典と言っていい高みにまで到達しています。わたしは常々、極東の小国ニッポンは、ただ金持ちなだけじゃないぞ、小型車を作るのが得意なだけじゃないぞ、マンガという素晴らしい文化を生み、そこには凄い創作家がいっぱいいるんだぞと、我が国のマスコミがもっともっと声を大にして海外に向けて宣伝するべきだと思っているのですよ。もちろんわたしたち一人ひとりも、うんと胸を張って、大いに誇りにしたいですよね。
世界中の多感な年頃の少年少女たちに萩尾さんの作品を読ませてあげたい、読めばきっと、心のなかのある特別な窓が開かれて、その窓から差し込む光が、その後のあなたの人生を照らしてくれるからねと伝えたい——そんなふうに思いつつ、今回あらためて『ポーの一族』のページをめくりました。わたしが初めて読んだときに出会ったエドガーは、わたしのなかのどんな窓を開けてくれたのかな、なんてことも考えながら。皆さんは、いかがでしょうか？

宮部みゆき

一九六〇年一二月二三日、東京生まれ。作家。速記業・法律事務所勤務の傍ら小説を書き始め、八七年『我らが隣人の犯罪』でオール読物推理小説新人賞を受賞。以降、『本所深川ふしぎ草紙』(吉川英治文学新人賞)、『龍は眠る』(日本推理作家協会賞)、『火車』(山本周五郎賞)、『蒲生邸事件』(日本SF大賞)などの傑作をつぎつぎと発表。最新刊は『天狗風』『理由』など。

小学館文庫

ポーの一族 2

1998年8月10日初版第1刷発行（検印廃止）
2002年4月1日　　第6刷発行

著　者 ——————— 萩尾望都

発行者 ——————— 辻本吉昭

印刷所 ——————— 図書印刷株式会社

発行所 ——————— 株式会社　小学館

101-8001　東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
振替（00180-1-200）
TEL　販売 03-3230-5749
　　　編集 03-3230-5456

ISBN 4-09-191252-4

——はるかなる一族(ぞく)によせて——

メリーベルと銀(ぎん)のばら

さよなら
いとしい人
さよなら
いとしい人たち
もう何度も
つぶやいてきた
ことばなのだ
けれど
きみだけを
愛し
きみだけを
見つめ
きみだけに
幸福を
願いながら
さようなら
さようならと

すぐる時どきの中
くりかえしてきた
言葉なのだ
けれど——